

令和2年度（2020年度）
磐田市市民活動団体意識調査

調査結果報告書

令和3年3月

磐 田 市

目 次

I	調査の概要	1
II	調査の結果	3
	1. 団体のことについて	4
	2. 地域（磐田市）の特性について	6
	3. 磐田市の今後の取り組みについて	10
	4. 団体の活動について	18
	5. 新型コロナウイルス感染症について	42
	6. まちづくり全般について	54
III	調査票	69

I 調査の概要

1. 調査の目的

令和4年度から8年度のまちづくりの指針となる「第2次磐田市総合計画（後期基本計画）」を策定するにあたり、市民の目線に立って検討を行うために、これまで市で実施してきた取り組みに対する市民の評価と、今後の取り組みについて伺う市民意識調査を実施した。

2. 調査の内容

- 1 団体のことについて
- 2 地域（磐田市）の特性について
- 3 磐田市の今後の取り組みについて
- 4 団体の活動について
- 5 新型コロナウイルス感染症について
- 6 まちづくり全般について

3. 調査の設計

対象者：市内の市民団体

標本数：234団体

調査方法：郵送配布－郵送回収

調査期間：令和2年7月22日～8月11日

4. 回収結果

発送数	回収数	有効回収数	有効回収率
234件	162件	161件	68.8%

※有効回収数は、回収数のうち無効票を除いた数

5. 注意事項

- ・回答率（％）は、その質問の回答者数を基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入している。したがって、比率の数値の合計が100.0%にならない場合がある。また、グラフにおける比率の合計は、コメントにおける比率の合計と一致しない場合がある。
- ・複数回答可の設問は全ての比率を合計すると100.0%を超える場合がある。
- ・グラフ中の「n（Number of caseの略）」は基数で、その質問に回答すべき人数を表している。
- ・本文中に「前回調査」とあるものは、平成27年度調査を指している。
- ・活動分野を分析軸として、上位5位を示した集計表は、「その他」・「わからない」の回答および無回答を除いた順位である。

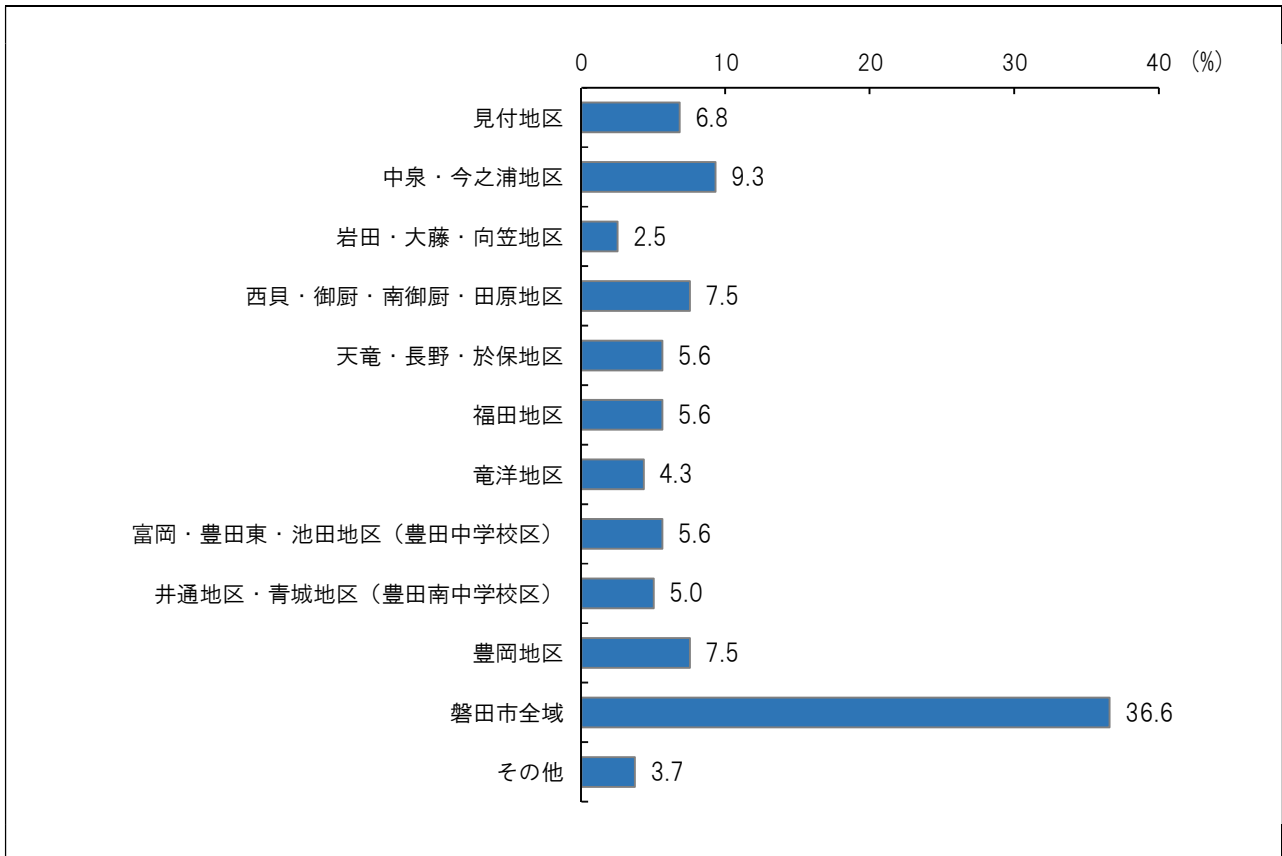
Ⅱ 調査の結果

1. 団体のことについて

(1) 団体の主な活動地域

問1 貴団体が主に活動されている地域をお答えください。〈○印を1つ〉

活動している地域は、「磐田市全域」が最も多い



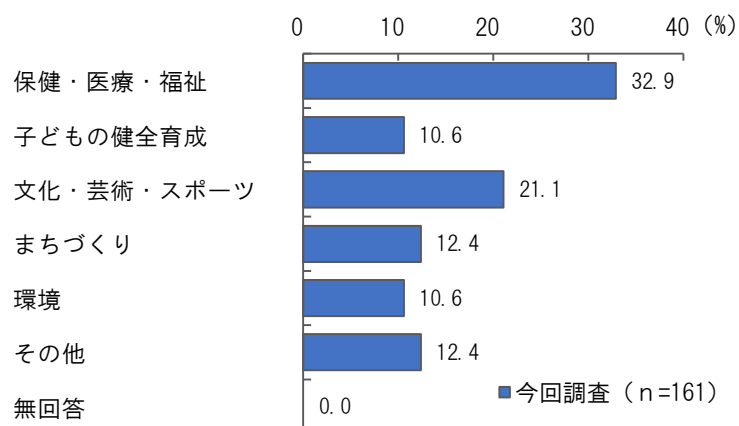
■今回調査の結果

- ・「磐田市全域」(36.6%) が最も多く、次いで「中泉・今之浦地区」(9.3%)、「西貝・御厨・南御厨・田原地区」「豊岡地区」(ともに7.5%) となっている

(2) 団体の属する地域

問2 貴団体の主な活動分野をお答えください。〈○印を1つ〉

主な活動分野は、「保健・医療・福祉」が最も多い



■今回調査の結果

- ・「保健・医療・福祉」(32.9%) が最も多く、次いで「文化・芸術・スポーツ」(21.1%)、「まちづくり」(12.4%) となっている。

2. 地域（磐田市）の特性について

（1）団体が日頃活動する地域の強み（良い点、活かすべき点）

問3 貴団体が日頃活動されている地域の強み（良い点、活かすべき点）は何だと思えますか？
 <○印を3つまで>

活動している地域の強み（良い点、活かすべき点）は

- ・「地域の連帯感・協力等」
- ・「地域活動（コミュニケーション、環境美化、防犯・防災）」
- ・「地域を支える人材」

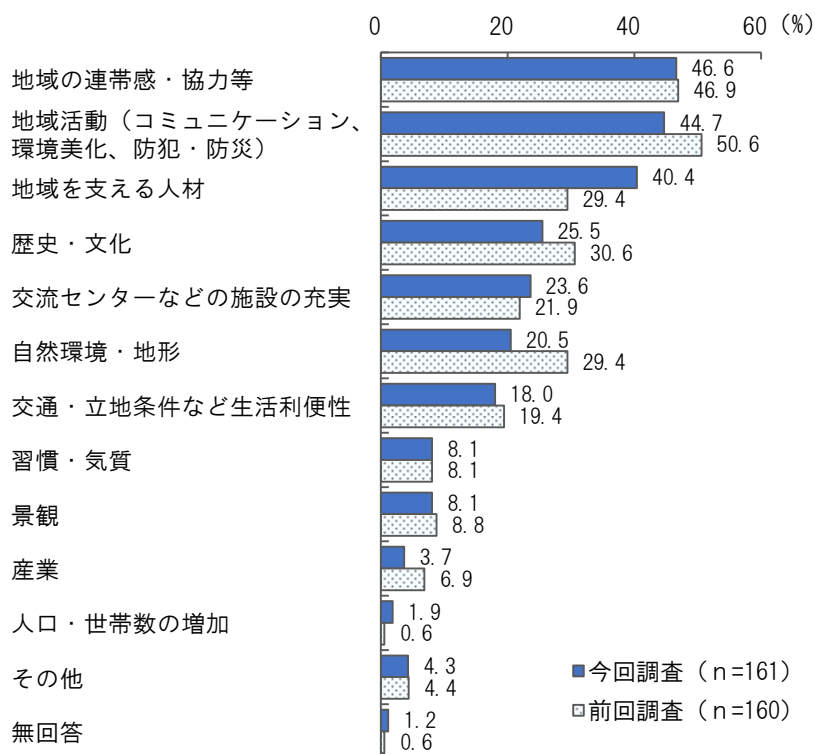
■前回調査との比較

- ・「地域を支える人材」が増加し、「自然環境・地形」が減少

■活動分野別の傾向

複数の活動分野で最も多い項目は、

- ・「歴史・文化」
- ・「地域活動（コミュニケーション、環境美化、防犯・防災）」



■今回調査の結果

- ・「地域の連帯感・協力等」(46.6%) が最も多く、次いで「地域活動(コミュニケーション、環境美化、防犯・防災)」(44.7%)、「地域を支える人材」(40.4%) となっている。

■前回調査との比較

- ・「地域を支える人材」が 11.0 ポイント増加している。
- ・「自然環境・地形」が 8.9 ポイント、「地域活動(コミュニケーション、環境美化、防犯・防災)」が 5.9 ポイント、「歴史・文化」が 5.1 ポイント減少している。

■活動分野別の傾向

- ・保健・医療・福祉では「地域の連帯感・協力等」(47.2%) が最も多い。
- ・子どもの健全育成では「地域を支える人材」(47.1%) が最も多い。
- ・文化・芸術・スポーツ、まちづくりでは「歴史・文化」(ともに 50.0%) が最も多い。
- ・環境、その他では「地域活動(コミュニケーション、環境美化、防犯・防災)」が最も多く、それぞれ 58.8%、55.0%となっている。

【活動分野別：上位5位のみ】

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
保健・医療・福祉	強み	地域の連帯感・協力等	地域活動(コミュニケーション、環境美化、防犯・防災) 地域を支える人材		交流センターなどの施設の充実	交通・立地条件など生活利便性
	団体割合	25 団体 47.2%		23 団体 43.4%	16 団体 30.2%	13 団体 24.5%
子どもの健全育成	強み	地域を支える人材	地域の連帯感・協力等 地域活動(コミュニケーション、環境美化、防犯・防災)		自然環境・地形 交流センターなどの施設の充実	
	団体割合	8 団体 47.1%		7 団体 41.2%		4 団体 23.5%
文化・芸術・スポーツ	強み	歴史・文化	地域の連帯感・協力等 地域を支える人材		地域活動(コミュニケーション、環境美化、防犯・防災)	交流センターなどの施設の充実
	団体割合	17 団体 50.0%		15 団体 44.1%	12 団体 35.3%	11 団体 32.4%
まちづくり	強み	歴史・文化	地域の連帯感・協力等 地域活動(コミュニケーション、環境美化、防犯・防災) 自然環境・地形			地域を支える人材
	団体割合	10 団体 50.0%			9 団体 45.0%	6 団体 30.0%
環境	強み	地域活動(コミュニケーション、環境美化、防犯・防災)	地域の連帯感・協力等	自然環境・地形	地域を支える人材 景観	
	団体割合	10 団体 58.8%	9 団体 52.9%	8 団体 47.1%	5 団体 29.4%	
その他	強み	地域活動(コミュニケーション、環境美化、防犯・防災)	地域の連帯感・協力等	地域を支える人材	交流センターなどの施設の充実	交通・立地条件など生活利便性
	団体割合	11 団体 55.0%	10 団体 50.0%	8 団体 40.0%	6 団体 30.0%	4 団体 20.0%

(2) 団体が日頃活動する地域の弱み（悪い点、改善が必要な点）

問4 貴団体が日頃活動されている地域の弱み（悪い点、改善が必要な点）は何だと思いますか？ <○印を3つまで>

地域の弱み（悪い点、改善が必要な点）は、

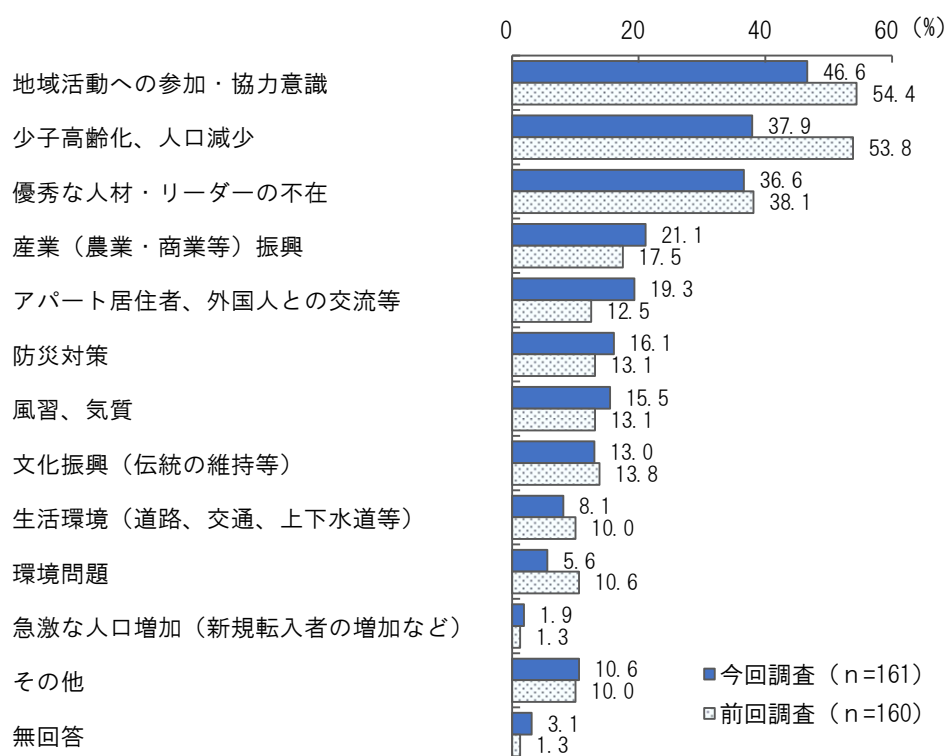
- 「地域活動への参加・協力意識」 ・「少子高齢化、人口減少」
- ・「優秀な人材・リーダーの不在」

■前回調査と比較

「アパート居住者、外国人との交流等」が増加し、「少子高齢化、人口減少」が減少

■活動分野別の傾向

複数の活動分野で最も多い項目は、「地域活動への参加・協力意識」



■今回調査の結果

- ・「地域活動への参加・協力意識」(46.6%)が最も多く、次いで「少子高齢化、人口減少」(37.9%)、「優秀な人材・リーダーの不在」(36.6%)となっている。

■前回調査との比較

- ・「アパート居住者、外国人との交流等」が6.8ポイント増加している。
- ・減少している項目は、「少子高齢化、人口減少」が15.9ポイント、「地域活動への参加・協力意識」が7.8ポイント、「環境問題」が5.0ポイントとなっている。

■活動分野別の傾向

- ・子どもの健全育成では「地域活動への参加・協力意識」「優秀な人材・リーダーの不在」（ともに41.2%）が最も多い。
- ・文化・芸術・スポーツでは「文化振興（伝統の維持等）」(47.1%)が最も多い。
- ・それ以外の活動分野では「地域活動への参加・協力意識」が最も多い。

【活動分野別：上位5位のみ】

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
保健・医療・福祉	弱み	地域活動への参加・協力意識	少子高齢化、人口減少	優秀な人材・リーダーの不在	産業（農業・商業等）振興	アパート居住者、外国人との交流等
	団体割合	24団体 45.3%	21団体 39.6%	18団体 34.0%	12団体 22.6%	10団体 18.9%
子どもの健全育成	弱み	地域活動への参加・協力意識 優秀な人材・リーダーの不在		アパート居住者、外国人との交流等	少子高齢化、人口減少	<ul style="list-style-type: none"> ・風習、気質 ・産業（農業・商業等）振興 ・防災対策 ・文化振興（伝統の維持等） ・生活環境（道路、交通、上下水道等） ・急激な人口増加（新規転入者の増加など）
	団体割合	7団体 41.2%		6団体 35.3%	5団体 29.4%	1団体 5.9%
文化・芸術・スポーツ	弱み	文化振興（伝統の維持等）	地域活動への参加・協力意識	優秀な人材・リーダーの不在 少子高齢化、人口減少	風習、気質	
	団体割合	16団体 47.1%	15団体 44.1%	14団体 41.2%		6団体 17.6%
まちづくり	弱み	地域活動への参加・協力意識	産業（農業・商業等）振興 少子高齢化、人口減少	優秀な人材・リーダーの不在	<ul style="list-style-type: none"> ・風習、気質 ・防災対策 	
	団体割合	10団体 50.0%	9団体 45.0%		8団体 40.0%	4団体 20.0%
環境	弱み	地域活動への参加・協力意識	アパート居住者、外国人との交流等 防災対策 少子高齢化、人口減少			<ul style="list-style-type: none"> ・優秀な人材・リーダーの不在 ・環境問題 ・産業（農業・商業等）振興
	団体割合	7団体 41.2%	5団体 29.4%			4団体 23.5%
その他	弱み	地域活動への参加・協力意識	優秀な人材・リーダーの不在	少子高齢化、人口減少	防災対策	産業（農業・商業等）振興
	団体割合	12団体 60.0%	8団体 40.0%	7団体 35.0%	6団体 30.0%	5団体 25.0%

3. 磐田市の今後の取り組みについて

(1) 磐田市総合計画の基本施策のうち、特に重要である・優先すべきと思うもの

問5 磐田市では、総合計画において31の基本施策に取り組んでいます。今後の取り組みとして、特に重要であると思うもの、優先すべきと思うものはどれですか？5つまで選んで、優先度の高い順にその取り組みの番号を記入してください。

「特に重要・優先すべき」基本施策は、

- ・「危機管理・防災対策の推進」
- ・「元気な農林水産業の育成」
- ・「子ども・若者の健全育成」
- ・「地域医療体制の充実」

■活動分野別の傾向

複数の活動分野で最も多い項目は、「地域医療体制の充実」

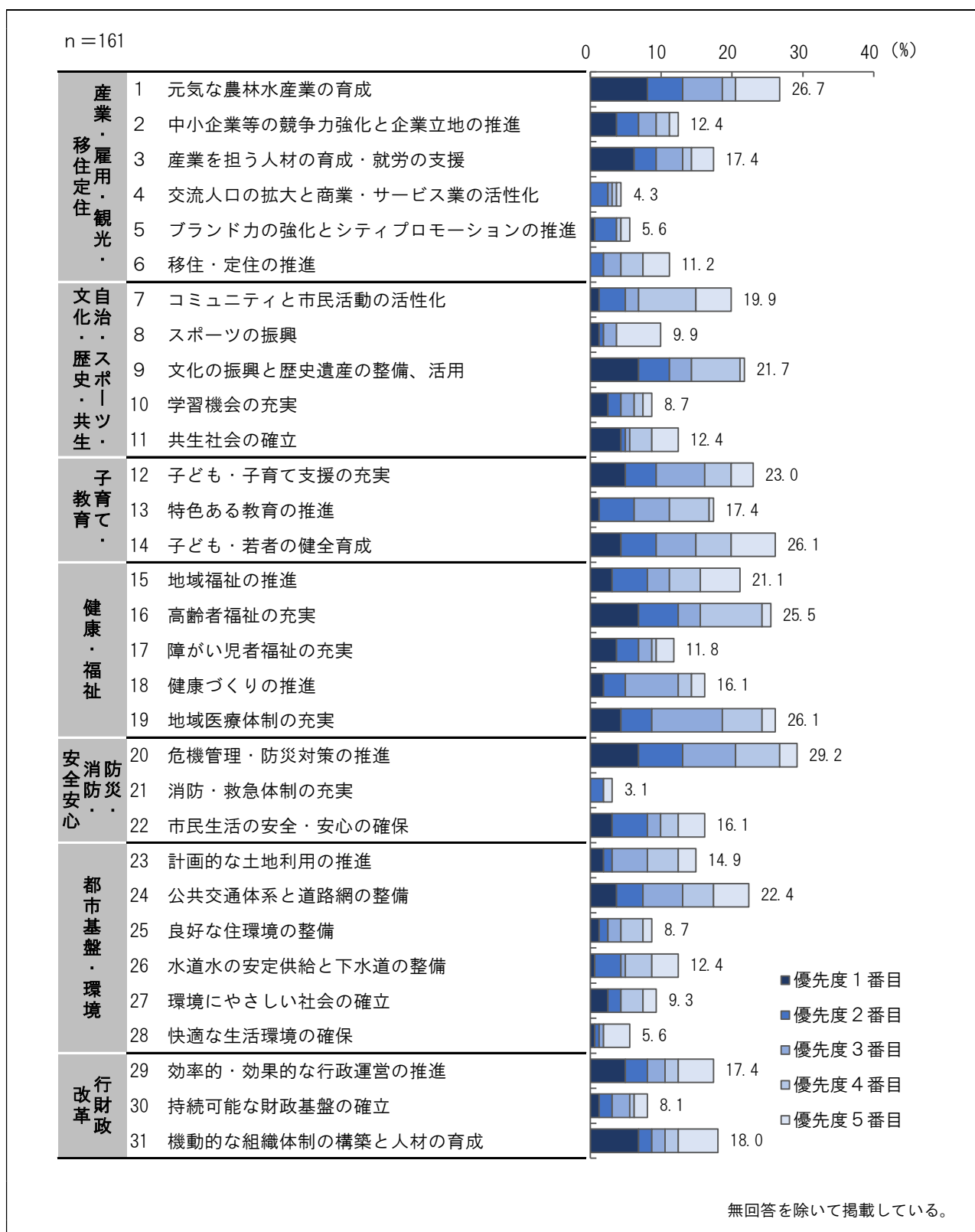
■今回調査の結果

- ・「危機管理・防災対策の推進」(29.2%)が最も多く、次いで「元気な農林水産業の育成」(26.7%)、「子ども・若者の健全育成」「地域医療体制の充実」(ともに26.1%)となっている。

■活動分野別の傾向

- ・保健・医療・福祉では「地域医療体制の充実」(34.0%)が最も多い。
- ・子どもの健全育成では「子ども・若者の健全育成」(52.9%)が最も多い。
- ・文化・芸術・スポーツでは「文化の振興と歴史遺産の整備、活用」(47.1%)が最も多い。
- ・まちづくりでは「産業を担う人材の育成・就労の支援」(40.0%)が最も多い。
- ・環境では「高齢者福祉の充実」「地域医療体制の充実」(ともに41.2%)が最も多い。
- ・その他では「地域福祉の推進」(40.0%)が最も多い。

■優先度1番目～5番目の合計



【活動分野別：上位5位のみ】

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
保健・医療・福祉	重要	地域医療体制の充実	危機管理・防災対策の推進	・健康づくりの推進 ・公共交通体系と道路網の整備		子ども・子育て支援の充実
	団体割合	18団体 34.0%	16団体 30.2%	14団体 26.4%		13団体 24.5%
子どもの健全育成	重要	子ども・若者の健全育成	・子ども・子育て支援の充実 ・危機管理・防災対策の推進		機動的な組織体制の構築と人材の育成	・元気な農林水産業の育成 ・共生社会の確
	団体割合	9団体 52.9%	6団体 35.3%		5団体 29.4%	4団体 23.5%
文化・芸術・スポーツ	重要	文化の振興と歴史遺産の整備、活用	元気な農林水産業の育成	子ども・若者の健全育成	・高齢者福祉の充実 ・効率的・効果的な行政運営の推進	
	団体割合	16団体 47.1%	12団体 35.3%	10団体 29.4%	9団体 26.5%	
まちづくり	重要	産業を担う人材の育成・就労の支援	元気な農林水産業の育成	・地域医療体制の充実 ・危機管理・防災対策の推進 ・計画的な土地利用の推進		
	団体割合	8団体 40.0%	7団体 35.0%	6団体 30.0%		
環境	重要	・高齢者福祉の充実 ・地域医療体制の充実		危機管理・防災対策の推進	・文化の振興と歴史遺産の整備、活用 ・公共交通体系と道路網の整備	
	団体割合	7団体 41.2%		6団体 35.3%	5団体 29.4%	
その他	重要	地域福祉の推進	地域医療体制の充実	・元気な農林水産業の育成 ・子ども・子育て支援の充実 ・高齢者福祉の充実 ・公共交通体系と道路網の整備		
	団体割合	8団体 40.0%	6団体 30.0%	5団体 25.0%		

このページは白紙です

(2) 磐田市総合計画の基本施策のうち、人口減少問題に対して特に重要だと思うもの

問6 日本全体が人口減少局面を迎えているなか、磐田市では、2060年（令和42年）に総人口13万6千人を確保することを目指しています。（※2020年3月末人口：16万9,673人）総合計画における31の基本施策のうち、人口減少問題に対して特に重要だと思うものはどれですか？5つまで選んで、その取り組みの番号を記入してください。

人口減少問題に対して特に重要な基本施策は、

- ・「子ども・子育て支援の充実」
- ・「産業を担う人材の育成・就労の支援」
- ・「移住・定住の推進」

■活動分野別の傾向

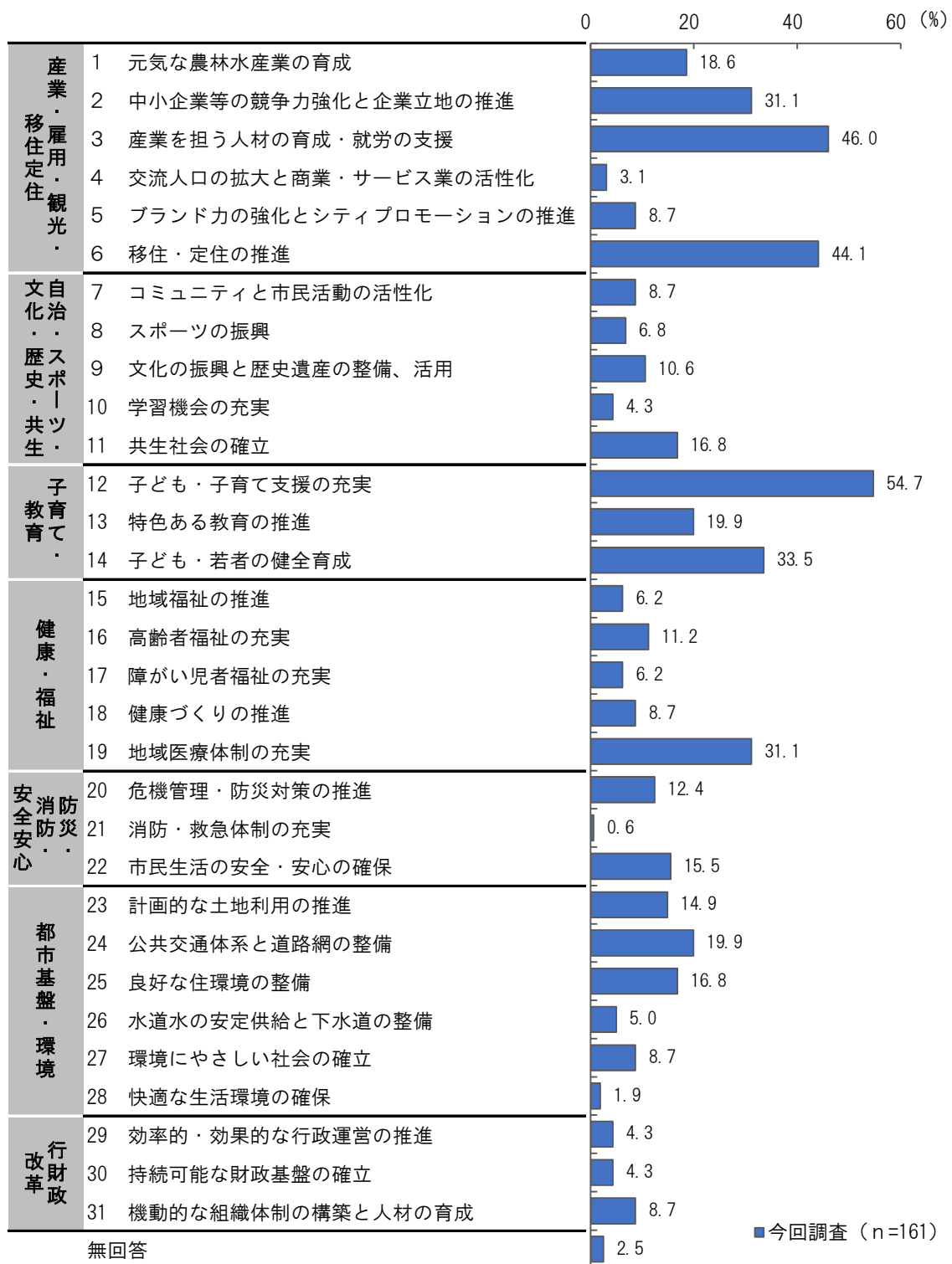
複数の活動分野で最も多い項目は、「子ども・子育て支援の充実」

■今回調査の結果

- ・「子ども・子育て支援の充実」（54.7%）が最も多く、次いで「産業を担う人材の育成・就労の支援」（46.0%）、「移住・定住の推進」（44.1%）となっている。

■活動分野別の傾向

- ・環境では「産業を担う人材の育成・就労の支援」「子ども・子育て支援の充実」（ともに64.7%）と最も多い。
- ・その他では「子ども・若者の健全育成」（60.0%）が最も多い。
- ・それ以外の活動分野では「子ども・子育て支援の充実」が最も多い。



■今回調査 (n=161)

【活動分野：上位5位のみ】

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
保健・医療・福祉	重要	子ども・子育て支援の充実	移住・定住の推進	産業を担う人材の育成・就労の支援	地域医療体制の充実	・子ども・若者の健全育成 ・良好な住環境の整備
	団体割合	25団体 47.2%	24団体 45.3%	21団体 39.6%	17団体 32.1%	16団体 30.2%
子どもの健全育成	重要	子ども・子育て支援の充実	産業を担う人材の育成・就労の支援	地域医療体制の充実	移住・定住の推進	・共生社会の確立 ・特色ある教育の推進
	団体割合	9団体 52.9%	8団体 47.1%	7団体 41.2%	6団体 35.3%	5団体 29.4%
文化・芸術・スポーツ	重要	子ども・子育て支援の充実	産業を担う人材の育成・就労の支援	・中小企業等の競争力強化と企業立地の推進 ・移住・定住の推進		子ども・若者の健全育成
	団体割合	21団体 61.8%	17団体 50.0%	13団体 38.2%		11団体 32.4%
まちづくり	重要	子ども・子育て支援の充実	産業を担う人材の育成・就労の支援	地域医療体制の充実	中小企業等の競争力強化と企業立地の推進	移住・定住の推進
	団体割合	12団体 60.0%	11団体 55.0%	10団体 50.0%	9団体 45.0%	8団体 40.0%
環境	重要	・産業を担う人材の育成・就労の支援 ・子ども・子育て支援の充実		移住・定住の推進	・中小企業等の競争力強化と企業立地の推進 ・子ども・若者の健全育成	
	団体割合		11団体 64.7%	10団体 58.8%		6団体 35.3%
その他	重要	子ども・若者の健全育成	・移住・定住の推進 ・子ども・子育て支援の充実		・産業を担う人材の育成・就労の支援 ・特色ある教育の推進 ・地域医療体制の充実	
	団体割合	12団体 60.0%		10団体 50.0%		6団体 30.0%

このページは白紙です

4. 団体の活動について

(1) 現在、取り組んでいること

問7 これからのまちづくりは、行政だけでなく、多様な担い手の協力が必要です。
既に市内でも多くの団体が、地域の問題解決や住みやすい地域にするための活動をしています。

そこで、貴団体で地域のために取り組んでいる具体的な事例や工夫していることがあります。もしありましたら、ご紹介ください。また、今後取り組みたいと思っていることも教えてください。

■活動分野：保健・医療・福祉

- 全ての犬猫に対する予防接種の実行により、コロナを含め多くのライフサイエンスの知識が最終的に全人類を救うことができることを全市民が認知することから、人類の安全、幸福は前進するものである。
- 地域のふれあいまつりに参加し、活動を知ってもらいながら交流を図る。
- 地域の福祉相談窓口
- 小学校の福祉体験の場
- 福祉移動販売車へ場所提供
- 福祉医療（在宅）の講演会
- 精神障害者家族相談会（毎月開催参画）：孤立して悩むことから救う、共感。
- 民生委員福祉部会への出前講話：精神障がいへの誤解、偏見をなくす。
- 精神障害者家族会活動の推進：医療・薬・対処への正しい知識を得る。
- 軽トラ市での“ぬくまるマーケット”への参加など：障がい者に対して市民の関心を向ける。
- 老人クラブは「老人福祉法」に基づく高齢者の自主組織、任意団体で地域の高齢者が自ら健康を支える仕組みとして活動している。
- 月例会や健康講座、交通教室等を開催し、高齢者のフレイル予防を実施している。
- 各種趣味クラブ（スポーツ、芸能等）を通して、フレイル予防に取り組んでいる。
- 会員相互に支え合いを通して、声掛けや見守り等の友愛活動を実施している。
- 街中や巷にあふれる情報を視覚障がいの方達に提供している。
- 自治会で子ども会、青年会、老人会など一緒に楽しむことができる行事を行っている。
- ひとり暮らしの食事会、秋にはいも煮、餅つき大会など
- 包括支援センターとの勉強会
- セミナーの実施
- 老人福祉施設、ケアに寸劇訪問
- 小中学校に手話体験に手話の指導
- 地域行事に参加
- 健康相談、施療回の毎月開催＝未病治療
- 不登校・ひきこもりの改善・予防＝講座と相談
- メンバーの得意分野をサロンとして開催
- 地区サロンに出前講座として出向
- 高齢者施設の入居者のために、季節の野菜・草花を紹介して気持ちをリフレッシュしてもらう。
- 高齢者入居者のために、歌やゲームや体操を通して楽しく体を動かして過ごしてもらう。
- 障がいのある人達の就労支援、余暇支援

- 事業所周辺の美化活動
- 健康生活習慣の普及による健康寿命の向上
- 高齢者同士のコミュニケーション機会づくり
- コミュニティの人間関係づくり支援
- サロンの参加者が楽しかったと思える活動内容にしている。
- 高齢者向けの体操、認知症予防のクイズ等を取り入れている。
- 地域の物を使ったメニュー作り
- 災害時の対応
- 高齢者の仲間づくりを通じ、生きがいづくりや生活の充足感醸成を指向
- 地域の諸団体と協力、地域づくりや社会活動、奉仕活動を行っている。
- 高齢者の有している経験や知識、知恵を社会還元すべく努めている。
- 老人会は組織が縮小傾向と言われている。組織拡大よりも魅力づくりを心掛けている。
- 防災に特化した、魅力付けをする。
- 防災トイレを 30 日分持ち、困った人にあげられる人に。
- 幼稚園、小学校との交流会
- 通学時の交差点の立哨
- 福祉課の委託による要約筆記の啓発活動
- 社協、ボラ連との協働による啓発活動やPR活動
- 地域住民多数の参加と親睦の向上
- 高齢者と学童の交流体験（餅つき会）
- 交通安全と防犯の保全
- 障がい者理解推進のため、地域行事に団体グループとして、参加している。
- 団体行事に、地域住民の参加を呼びかけている。
- 顔の見える関係づくり
- 相互の信頼関係を築く（価値観や知識の共有）。
- 専門職としての向上
- 地域住民と専門職をつなぐ。
- 高齢者への支援、まちづくりへの参加など
- 当クラブは市内在住者のみではなく近隣在住のメンバーと共に活動している。
- 要望があればどこでも出かけて行く。
- 一般市民公務員の中で定年後、市の関連職種に携わった人材を利用しては。人材、役員選出については、地区、自治会を通して選出しては。手当の問題全体に検討する必要がありますね。
- 福祉施設で行っている行事に積極的に参加すること。
- 年寄りの集まりのため、年に一度の旅行に参加をする。
- 発達が気になる子達の療育指導（未就学児）、相談
- 幼稚園・保育園に在籍している障がい児指導・支援・相談
- 心身の発達に心配のある学齢児の療育指導の余暇指導（水泳、運動教室、SST教室）
- 発達が気になる子の育て方の支援、ふれあいペアレントプログラム
- 声掛け運動
- 見守り（老人のひとり世帯）
- 高齢者の健康づくり、仲間づくり、居場所づくり
- 医療費の削減

- シニアクラブ（老人会）の充実を図っている。
- 趣味クラブ（カラオケ、折り紙、グラウンドゴルフ等）活動実施
- 毎月1回の定例会の開催
- 毎月誕生会の実施
- 知的障がい者の施設でのボランティア活動（週3日）月・水・金
- 「ありがとうメッセージ活動」イベントの場で市民から、かかりつけ医や病院へ感謝の気持ちを届ける。書いてもらったものを個別にまとめて各医療機関へメンバーが直接届けている。
- 地域医療に関する市民向け講座の開催（健康増進課との連携・協働）
- 「地域医療シンポジウム」の開催（団体負担金：中東遠圏域）
- 「医療と介護シンポジウム」の開催（県補助会事業→浜松医科大学）：県域
- 「地域医療支援ネットワーク協議会」への参加（県域住民団体）
- コロナ禍による防護服作り
- 市内施設の視察研修
- 災害時に電気の供給（ソーラー設置）、水の供給、AEDの設置をしている。
- 障がい福祉理解の促進をしている（民生児童委員、ボランティア受け入れ）。
- 聴覚障がい者と健聴者との交流の場を設ける。
- 地域（市内）の方に手話を学ぶきっかけづくり
- 聴覚障がい者（児）の理解、地域における問題など一緒に考える。
- 障がい者の就労の場所と住む所の提供
- 障がい者の相談支援と高齢者の相談支援
- 地域の高齢者、子どもの居場所づくり
- 高齢者のサロンを週1回やっている。
- 活動の周知による参加者の増加
- 活動の意義、楽しさの周知
- 手話言語条例の推進
- 地域の活動に参加していない高齢者の受け入れをしている（健康吹き矢、iプラザ）。
- 外部講師による講演会等の企画・運営
- 約15年のボランティア活動を行ってきましたが、会長の他、メンバーの体調を理由として、また、高齢化しつつありますので、また、今の時期では訪問することができず至っています。主に高齢者施設での芸能関係ですので楽しみに待っている次第です。
- 守りたい地域の宝「トンボの楽園」桶ヶ谷沼への支援
- 保育園毎月1回子ども達と絵本の読み聞かせや、紙芝居のふれあい活動
- 磐田市子育て支援センター絵本を寄贈、多くのお子さんに見てもらえる。
- 老人施設で歌、踊り、ゲームなどの演芸を提供

■活動分野：子どもの健全育成

- こども工務店で家づくりに関する職業体験をしている。
- 防災井戸プロジェクトで水・木・火に触れる体験
- かなの薄削り、七夕飾り作り
- 参加者が幅広い選択肢を持てる活動を続ける。
- 活動場所の美化活動

- 芝生広場の維持活動（水まき、草取り、芝刈り、周囲の草刈り）
- 子育て、青少年の健全育成のための社会教育活動。ボーイスカウト活動の周知支援（ブログ制作）。放課後子ども教室運営（2校）。
- メンタルサポート活動。各種アセスメント、手伝いによるカウンセリング（無料相談他）。
- 各種講座の開設。各種療法による入門講座。県内・県外とのネットワークによる講座他。
- 市内施設での悩み相談教室運営。
- 子ども達の健全育成のため、野外活動の充実
- 市内外の情報収集を考慮した交流活動
- 保護者世代のコミュニケーションの場づくり
- 良き社会人養成のための子ども教育
- 野外活動を通して自主的行動のできる子ども指導
- グループ内での役割分担を果たせる教育
- 自らの健康を創る。
- 不登校、引きこもりなどの問題を抱えている方々の相談受付や講演会の開催。また、そのテーマに見合った人材の発掘とネットワークづくり
- 関係機関とのネットワークづくり
- 関係団体とのネットワークづくり
- 地域防災合宿への支援
- ふれあい広場での赤い羽根募金活動
- 商工会のサマーキャンプ支援
- 防災訓練への支援
- 幼稚園、小学校での読み聞かせ
- 幼稚園、小学校、老人のサロン等でのブラックシアター上演
- アジアの子ども達へ絵本を届ける活動（子ども達を対象に絵本貼り会のワークショップを行っている）。少数民族のクラフト販売として、フェアトレードを推進しています（ふれあい広場で販売している）。
- これらの活動を通じて、地域の人々に様々な環境の中で生活している人々の事を想う“心”を育てています。
- 子どもの居場所づくり、遊びの場提供
- 大人の相談室
- 子育てに疲れた時の子ども預かり
- 生活スキルアップイベント
- 市内に活動拠点＝フィールド（実際に活動する場所）を持たないので取り組んでいない。
- 小学生の就労観を育成する体験・発表プログラム
- コミュニティスクール推進
- （現在休止中ですが）夏休み寺子屋
- 大人のためのキャリア教育カフェ
- 活動の事業化、活動資金を生み出す仕組みづくり
- サービス内容提供のオンライン化
- 人材育成
- コミュニケーションを民、行政、学校、企業で図ること

■活動分野：文化・芸術・スポーツ

- 高齢者の健康づくりのための講座や各種スポーツ交流
- 幼稚園児や小学生との交流
- 独居老人への支援（家庭訪問や声掛け）
- 交流センターの行事への参加、自治会活動への参加
- 「歴史的講座」の開催（年4回程度）
- 郷土史の発行（年1回、※現在47号執筆中）
- 郷土史研究発表会（年1回）
- 郷土史歴史講演会（年1回）
- 協働のまちづくりの一翼を担いたい。
- 興味がある内容に参画したい。
- 人形劇フェスティバルを通して子ども達の健全育成に取り組んでいる。
- 人形劇の文化芸術の継承
- 会員の増加
- サッカーを通じて少年少女の健全育成に取り組んでいる。
- サッカーを通じ田原地区の子どもの健全な成長を支える。
- 年に2回展覧会を開き、市民の皆さんに絵画を見てもらっている。
- 会の中でスケッチ会や研修を行うとともに、広報誌で活動を知らせている。
- 子どもやお年寄りの施設の行事に参加して楽しんでもらう。
- 演奏を通して元気・笑顔を取り戻してもらいたい。
- 新型コロナ感染対策をしながら慰問コンサートの準備をしています。
- 脳外傷の人々のケア
- 高齢者の人々に希望を持ってもらう活動
- モノづくりのきっかけとしての子どもプラ教室の実施
- 家を出るきっかけとしてのニートと一緒にプラモデルを作る会
- 磐田市をテーマにしたプラモデル作品の制作とプロモーション
- しっぺいのプラモデルの開発（市内企業との共同事業）
- 各地区交流センターとタイアップし、地元の遺跡や文化財を訪ねる。
- ウォーキングしながらガイド活動を企画・実施している。
- 対象を子ども（小中）にした活動を通じ、基礎づくりを実施
- 使用会場の環境美化（ごみの持ち帰り、落ちているごみの処分）
- 使用会場トイレの清掃
- 使用会場の除草及び落葉の除去
- 使用会場のベンチの修繕
- 市民のITリテラシーのUPを目的とし、IT機器の使い方相談会をやっています。
- 地域の児童との交流、若葉の集い
- 地元幼稚園児との餅つき交流会
- 交流センターの除草、庭木剪定の奉仕作業
- 市内の祭り保存会と意見交換している。
- 市内の文化財の周知、活用について見学したり、学習したりして、保存、伝承に協力している。
- 地域の民俗調査を通じ地域と一体化して、地域の民俗の伝承に協力している。

- 磐田市をギターのみちにした（浜松市を意識して）。
- 敬老会や老人ホームへの慰問演奏会
- 音楽を通して楽しい磐田市にしたい。
- 市の音楽祭の開催(年2～3回実施希望)
- 年3回程度、小学生とシニアクラブ員の交流会（昔の遊び、料理教育、グラウンドゴルフ等）
- 毎月1回の神社の清掃
- 祭典、納涼大会への参加
- 磐田に伝わる昔話や伝説を紙芝居にして、小学生、老人親睦団体(サロン)などで上演している。
- 市内の歴史や文化の学習による魅力の再発見
- 活動できていないため、団体を最低維持だけしている。
- 地方にいても中央の生のプロ劇団による舞台を鑑賞すること
- 演劇情報をみんなの中に知らせ関心を深める。
- 演劇講座、役者さんの話などを聞く会を持ち、文化向上に寄与
- 観た舞台を話し合い演劇文化の思いを深める。
- 市芸術祭の企画運営
- 研究誌の発行
- 子ども対象の文化教室の開設
- 公益文化イベントへの協力
- 学びの師・学びの庭への自主登録
- ポスター・コンテストなどの審査協力
- 高齢者同士の友愛、支援、見守りに、積極的に取り組んでいる。
- コロナのために活動は休止

■活動分野：まちづくり

- 地元の文化財である旧津倉家の維持管理の支援
- 旧津倉家の公開、掛塚のみちめぐりなどの啓発活動の実施
- まちを賑やかにするためのイベントの開催
- 他のまちづくりグループとの連携
- 空き家の利用（リノベーション、利活用）
- 空き家の所有者と利用希望者のマッチング
- 空き家の所有者の問題解決提案（管理、片付け、処分）
- 空き家から派生する相続、保険などの関連課題の解決
- 山道を年何回かに分け、ボランティアの方々と整備しています。
- 若者に参加していただける事業を実施している。
- 海を知ってもらう。身近に感じて地域愛を持ってもらう。
- 歴史文化を大切に。そのアピール向上。
- 環境重視、電線地中化の訴え
- 大池の環境設備で花壇手入れ草刈り
- 散歩されている方の御意見を聞く。
- 支部シニアクラブで高齢者が元気に暮らせるように活動している。
- 地域内の防犯、子どもの健全育成に青パト等で活動している。

- 磐田市の憩いの場としてひょうたん池やホテルが楽しめるよう活動している。
- 豊岡北地区の活性化のため、豊岡駅を利用してミニコンサートやフリーマーケットを開催
- 地域住民が集える場づくり。自分達も楽しんでいます。
- 観光化に向けた準備活動
- 緑十字機不時着 23 時 55 分祭の準備
- 第 3 回平和大会模型・資料のみの発信準備
- イベントの出演者・ボランティアスタッフ共に積極的に中学生を募集している。大人と協力し、苦勞して成し遂げる充実感を味わってもらふ。出演者には武士の規律と精神の美を表現していただくよう練習へ参加をお願いしている。
- ハーブや香る樹木を植えて市民に紹介
- 花壇に花を植えて花いっぱいのもち（市）にする。
- 花や植物の良さを知ってもらふ。
- 地域文化の発信と街の賑わいづくりとして、「見付宿たのしい文化展」の開催
- 街に伝わる風習などの継続発展と賑わいづくりを目指して、御命講など縁日への支援（古都富喜市の開催）、公共施設への門松設置 4 か所
- 町並み整備への助言など。①見付宿町並み整備事業への協力、②見付のお蔵の調査、③行政と協働で歴史ある見付の風情の復元
- 市民に見付のことを知っていただく取り組み。①見付のお寺を巡る「九山巡り」の実施、②歴史講座の開催
- 市民に楽しんでいただくイベント。①中川にこいのぼりを掲揚する（市民にこいのぼりの寄贈を依頼）、②中川で子ども達に「アユのつかみどり」を実施（増水のためここ 2 年中止）
- 会員の研修。①月例会で会員が順番に見付の話を披露する、②研修旅行の実施
- 見付地区地域づくり協議会に参画し、見付地区自治会や他団体との連携が必要なものについては協力する（見付地区自治会・ふれあいガイド等）。
- 地域づくり、まちづくりの出前講座
- 磐田のお宝再発見事業
- 子育て支援、青少年健全育成、不登校、引きこもり関係の活動
- 市民活動団体、各種実行委員会の後方支援
- なんでも相談
- 各活動拠点を 1 か所に統合し、地域づくり協議会、自治会活動の情報を正確に迅速に対応
- 磐田駅前活性化（クスノキ市場 DE ビアガーデン）の開催
- 中泉地域づくり協議会と協働した中泉地域の活性化
- 地元有志・中泉地域づくり協議会と協同開催クスノキカフェの実施
- 磐田市商店会連盟・商会議所・駅前商店街・地元企業と協同開催のいわた DE ハロウィーン
- 2 万平方メートルの山を花の公園にしている。
- 公園内の道路を安全な道にしている。
- テレビ、新聞などに花の見頃を告知している。
- オフロードのでこぼこの道を体験してもらっている。
- 1 年に満たない団体です。地域の特色を生かすことを念頭に置いています。兎山公園での花壇管理のための花の種蒔き、育苗、植え付け、メンテナンス等。
- 生物への幼少期からの関心を持ってもらうよう、種蒔き、植付の中学生ボランティアの受け入れ（新型コロナで実現していない）。
- 地域の子ども達を巻き込んでの活動

- 地域活動への協力

■活動分野：環境

- まだ設立して間もなく、地域活動には取り組んでおりません。
- 大池川遊歩道の美化活動（150m）①四季折々の花壇の植え付け及び手入れ。②遊歩道横の土手の草取り 150m（350㎡）。③大池川に流れてくる浮遊物のゴミ拾い。
- 環境美化活動、公園河川道路の草刈り、除草剤散布、藻刈り（豊田川底）など
- 学童の登下校時の見守り、地域内の安全安心の見守り
- 天神社公園の整備、自治会管理倉庫など設備の整備
- 活動を区民に周知するため、かわら版の発行、回覧
- クラブ員の懇親会（芋煮会など）お楽しみ会、味噌作り
- 活動資金や寄付金のために資源回収（年1～3回）
- 百歳体操の推進
- 絶滅危惧種の保護、増殖（ベッコウトンボ）。今年の羽化数は激減、絶滅の危機を乗り越える活動。
- 自然遺産の保護、保全活動
- 野生生物の生息地保全、啓発活動
- 磐田の「宝」を磨き発信活動
- 未来の担い手・子ども達や若者への伝達と継承活動
- 今年は平成12年5月からの20年目の活動ですが、細々と続いています。発足当初は主に河川内の大型ごみ（自転車、オートバイ等）を引き上げ処分しました。一段落した後は上流から流れ来て対岸等の茂みに溜まったごみを拾いました。浮遊するごみを何とかしたいと、ごみ捕獲トラップを設置しました。
- ごみ拾い
- 東海道七つの道（明治の道、鎌倉の道、江戸の道 etc.）の環境美化活動
- 30年近くの歴史があり、最近では老人だけでなく若い年齢層の参加が増加
- 毎月第1日曜日午前8:00～8:30の活動で、老人会の活動は毎月10日に実施しているので、大日堂や七つ道周辺は1年を通じ清掃が行き届いている。
- 河川の清掃
- 一里塚の清掃
- 復元した神増坂遊歩道の整備（草刈りなど）
- ギョーザまるかわ向かい東側道路に面した森の整備、ツツジ、サザンカ植栽の手入れ
- 遊歩道内の休憩所（見晴し台）の整備
- 地域に呼びかけ年3回実施のべ500人の応援をいただいた。多くの人が足を運んでくれるよう公園整備を進めた結果である。まだ、途中段階でありコロナの影響で中断しているが、今後も進めたい。
- 雑紙5kgで、トイレットペーパー1個と交換。牛乳パックの場合は4kgで交換。
- スーパーバッグ、食品トレイ撤廃への啓発。マイバッグ持参。
- 会員各自で生活を見直し、定例会で発表し自分の生活に役立てる。
- 年4回地域の憩いの場所、神社境内の草取り清掃
- 天神社、遠州の園の花壇に花苗、種から育てた花を植えている。
- 環境美化活動（公園河川・道路の草刈り、除草剤散布、藻刈りなど）
- 学童の登下校時および地域の安全・安心の見守り
- 天神公園および自治会防災倉庫などの整備

- 活動を区民に周知するため「地区内かわらばん」の発行、回覧
- 今ノ浦川（磐田北小東側より今之浦大橋までの1.5km間）の除草・ごみ拾い
- 今ノ浦川堤防の河津桜並木の育成と樹木剪定、中川こいのぼり掲揚（4～5月）、落ち葉拾い・落ち葉まつり（11月）、河津桜花見会（2月）、堤防花壇づくり
- 今ノ浦川流域の歴史と環境の学習と今後の流域整備に関する提言

■活動分野：その他

- グラウンドゴルフ週3回（火水土、一時期中止）
- 花の会、随時
- 総会、誕生会年4回、新年会（誕生会1回中止）
- カラオケの会週2回、旅行年1回（コロナ禍で休会）
- 今まではボランティアの年齢が60歳～80歳以上でしたが、子育て中の30代のボランティアにも入ってもらっている。
- 会員の健康保持、親睦を目的としたグラウンドゴルフやスポーツ大会の開催
- 公会堂周辺の清掃奉仕や花壇の世話
- 自治会の防犯活動（月2回）への協力
- 磐田鮫島方式井戸の保守点検
- 連続給水栓装置の復旧
- 避難所の冷房実験
- 地下水のミネラル活用の研究
- 様々な組織、団体が協働し合う事業の実施（インターナショナルフェア）
- 地域日本語教育
- 多文化防災
- 平成23年3月11日の東日本大震災で併発した「福島第一原発事故」が生き方を見直す機会になりました。平成24年に立ち上がった「みんなで決めよう 原発は正投票静岡」の署名活動に集い、磐田支部ができました。1つになった思いが散逸することを心配した有志が残り、語り合う場・放射線量の測定・「希望の牧場」への支援などを続けました。「福島を忘れない」を約束に、毎週月曜日に“しゃべり会”を続けています。
- 行政の迷い犬の保護（引き取り）と新しい家族への譲渡活動
- 災害時のペットについての対策を普及啓発活動、毎年市内でペット同行避難の取り組みを続けています（いわた減災ネットワーク連絡会の会員です）。
- ペットの適正飼育についての広報（狂犬病集合接種会場にて）
- 県の保健所、動物保護協会の主催するふれあい訪問活動、動物愛護教室に犬と共に参加する。
- 公共施設の清掃
- 自治会単位での学習、行動、協力、サロン
- 就学児童の見守り体制（隊）
- 新入学児（1年生）のランドセルカバー（黄色）、とても目立って良好
- 交通事故減少を目標に街頭指導
- 通学路の草刈り
- 社会奉仕活動：公園の草刈り
- 中学生とのふれあい活動（竹とんぼ作り、布ぞうり作り、スポーツ交流）
- こども園、園児との野菜収穫体験

- 高齢者が孤独とならず、元気で暮らせるコミュニティをつくる。
- 町内の関係役員（自治会、民生、福祉、保健委員）との懇談（年1回）
- 親和会の活動状況を、毎月ニュースとして、関係役員に届けている。
- 愛后神社境内の清掃（毎月）、府八幡宮の清掃（年2～3回）
- 生きづらいと感じている人への気づきの場の提供
- 男女共同参画社会は全ての人々の大切な住みやすい社会のPR
- 公民館、屋台のしめ縄づくりの継承
- 自治会活動（遊歩道の草取）への参加
- 衣、食、住、家計、子どものこと
- 日常生活の中で母親にできる地球環境改善活動
- 女性が地域の防災活動に参画していくための環境づくり
- 平和社会の維持のための活動と学習
- 核兵器廃絶のための活動（平和行進、集会の計画）
- 市民の平和展の開催
- 日頃休みなく働く母親達の一息つける場づくり。具体的に、イベント・ママ会（ZOOM会）・講座。
- 住民の防災意識の向上
- 防災クッキングなどの講座
- いざという時に役立つ持ち出し品、応急手当

(2) 今後、取り組みたいこと

問7 これからのまちづくりは、行政だけでなく、多様な担い手の協力が必要です。既に市内でも多くの団体が、地域の問題解決や住みやすい地域にするための活動をしています。

そこで、貴団体で地域のために取り組んでいる具体的な事例や工夫していることがありましたら、ご紹介ください。また、今後取り組みたいと思っていることも教えてください。

■活動分野：保健・医療・福祉

- 子どもの時からの健康を守る、増進する知識及び歴史の事実と人類の「業」、日本人としての自覚義務、努力を促す教育を一貫して実現しなくてはならない。これを「人類共通伝染病予防キャンペーン」を通して作ることはできると考えている。
- 市内で行われるイベントへの参加
- 地元自治体と協力して地域福祉の充実を図る活動
- 「家族による家族学習会」「精神障害者相談会」を継続すること（一人で悩んで孤立し、必要とされる社会支援を受けていない家族をなくす）
- 民生委員・自治会長及びこれらの上部団体への“精神障がい”に関する出前講話の開催（磐田市からの協力、支援をお願いする）
- 国が進めている「精神障がい者にも対応した地域包括システムの構築」を早期に実現するために家族会として何ができるのか。「アウトリーチの促進」とは言うものの地域の皆さんを巻き込んで障がい者が自立するというのは難しい。簡単ではない。でも、社会とつながるまでの最初の一步を踏み出すための手助けはできるのではないか。それが「相談」や「学習会」や「例会」への参加呼びかけだと考えます。行政の支援(背中押し)をお願いします。
- 老人クラブは高齢者が自ら参加し主体的に活動していることから、高齢者が自分のフレイル予防に自ら取り組み、効果のある予防介護をする。
- 地域にいる多くの高齢者の社会的フレイルの改善を目指していきたい。
- 高齢者が自ら介護の予防（フレイル予防）をすることで、他人に依存した介護にならないような活動を進めたい。
- 他人に世話にならない生活を実現し、介護保険給付の軽減や抑制に貢献したい。
- 市民の個別相談窓口の設置
- 行政との連携
- 手話の指導できる人の人材育成
- 実績充実と普及
- メンバーの高齢化に加えコロナで活動の見直しが必要と感じる。
- 入居者の施設内の移動や洗濯物に関するお手伝い
- 障がいのない人々に障がいについて理解してもらおうような機会
- 不登校、引きこもり等の当事者と家族支援
- 軽度精神障がい者の社会復帰支援
- ボランティアも高齢化しています。新しく若いボランティアをしてくださる方を募集したいと思っています。
- 栄養士の指導を受けたい。
- 地域の理解を深めたい。
- 平和や豊かさの中で利己主義的風潮が拡大している。相互扶助意識の醸成。

- 教養がない（今日用がない）、教育がない（今日行く所がない）と揶揄されないように、目標・目処を持った日常の生活手法
- 生きがいは自分で見つけ、得るもの
- 福祉課の委託による要約筆記の啓発活動と、社協・ボラ連との協働による啓発活動やPR活動の継続
- 学校の福祉教育や敬老会などでの活動の紹介。そのためのサークル会員の増員が望まれる。
- 健康維持の持続と簡単なニュース報道の会話
- 地域の活動に専門職も参加し、活動する。
- 安心して暮らすことができる受け皿づくり
- 住民の活動に専門職がサポートできる体制
- 25年間ボランティアを続けています。30年、40年と続けていけたらと思います。
- メンバーの高齢化により後継者づくりに取り組みたい。
- 今後は高齢者問題、特に職種、年齢等により問題が多い。
- 旧市、町、村の格差問題が多い。
- 他団体との交流を持ち、同様の目的を持つ団体（福祉ボランティア）と一緒に行事に参加してみたい。
- 市内のお子さん対象での発達が気になる子の育て方の支援、ふれあいペアレントプログラム
- 市内の方対象の発達に関する講演会
- 今取り組んでいるものを次の担い手に渡す。どんな形で渡そうかと考える。
- 役員のなり手がなく解散しないように、渡し続けてつなげていくことが必要。
- 需要と供給、内容の見直しを考えていきたい。
- 社会の変化、個人情報など活動が難しくなっていることを踏まえていきたい。
- クラブ活動の強化
- 会員の拡大運動
- 子どもとのふれあい事業
- 自治会との連携強化
- 私自身が後期高齢者（87歳）なので新しいことは少し無理があり、今でも杖頼みの歩行のため現状のままで申し訳ありません。
- 出前講座「地域医療の内容」「防護服作り」
- 地域医療に関する条例の勉強会（他市施行例より）
- 救急車の利用の仕方についての啓発活動（特に若い世代対象）
- 交流の場を設けているが、活動が展開されていない。市内での福祉に対する意識が弱い。これらを踏まえ、さらに現在取り組んでいることを発信したい。
- 手話カフェなども行ってみたい（手話普及のために）。
- 障がい者のための仕事を増やしたい。
- 障がい者のための住宅の確保
- 地域の人達が安心・安全に過ごせる場所づくり
- 活動の必要性（求められていること）の周知
- 会員（参加者）の拡大
- 手話の理解を市民に広げること
- 会員を増やし、活動を継続していけるようにしたい。
- 地域サロンとシニア活動に誘う。
- メンバー全員が健康で皆様の顔を思い出しながら、お待ちしている施設にショーで楽しんでもらいたいです。
- ボランティア活動に協力してくれる人の探索

- 高齢者の健康づくりや地域包括支援センターとの連携
- 子育てサロンでの活動
- 乳幼児とその親御さんたちと一緒にバルーンで物をつくり、笑顔を届けたい。
- 介護施設でのバルーンアートプレゼント活動
- シニアクラブ参加者が年々減少しているので参加者を増やしたい。
- 市民（底辺にいる我々、特に主婦）との直接対話
- 市民ボランティアの育成
- 障がい者・高齢者（要介護）を抱えている家庭のサポート
- 特別養護老人ホームの充実、サービス内容の高度介護を目指す。

■活動分野：子どもの健全育成

- これまでの活動に固執しないが、理念の構築とそれに伴う活動をしたい。
- 野外活動とメンタルサポートをジョイントした「イワタ・メンタル・トレール」で、一泊二日の屋外活動（キャンプ・ハイキング・その他）を運営したい。
- 悩み相談員の増強と悩み相談室の会場を以前の数に増やしたい。
- 「イワタ・メンタル・トレール」のベースとなる土地がほしい。
- 野外活動充実のための拠点づくり
- 地域行政との相互活動
- 仲間づくりの拡大
- 多様性のある社会でリーダーシップを取れること
- 行動に対して責任を持ち人格を高める。
- 良き社会人の育成
- 3年目であるため、現在取り組んでいる内容を充実させていきたい。
- 活動は20数年続けています。今後も継続したいと考えています。
- 望まない妊娠相談
- 子どもの悩みごとホットライン
- 幼・保～大学生までの発達に応じたキャリア教育（市内）
- キャリア教育・コミュニティスクールのよろず相談・コンサル窓口
- 就職・その後の定着において高校生、大学生からの相談、コーチング
- 自己肯定感、信頼を育む大人と子ども、親子プログラム（子ども哲学・お悩みキャッチボールなど）
- 市とのビジョン共有
- 幼稚園の子ども達に木の大切さを教えたい。どんぐりから育てて、もう5年になる。毎年来てくれる。
- 里山公園で良いこと、いけないことを体験する。園内にトイレ、電気があれば子ども達も安心。
- 小学校・中学校に出向き、生物（植物）への「命の営み」等を知ってもらうための活動
-

■活動分野：文化・芸術・スポーツ

- 郷土の伝承、神社等の調査取りまとめ
- 現状の活動の維持
- 市民や地域、行政からの活動の要請に応じたい。
- イベント等を手伝ってくれるボランティアを確保したい。

- SNSを活用して人形劇、磐田の魅力を発信していきたい。
- 会員の増加
- 少しでもサッカーの楽しさを知ってもらうために底辺の拡大を図りたい。
- 展示場が中央図書館のみになり、多くの絵画団体と連携して新展示場の建設を市に求めていく。
- 現在の活動を長く続けていきたい。
- 参加するメンバーの気力・努力目標を保つよう工夫し、練習しています。
- 大人の人々に希望を持ってもらう活動
- 障がいのある人が人前でもっと活動できるように協力していきたい。
- 平成3、4年ごろ、中泉公民館、見付公民館が作成した多くの石碑があるが、説明資料が見つからない。市各地に散らばっているこの石碑を調べてみたい。
- 入会会員を増やし、1人でも多くの引きこもりをなくすこと
- 会員の相互援助や、いつまでも、元気でいられるような体力づくりの一環として、今後もゴルフクラブを継続していく。
- 地域の民俗文化の記録と保存伝承
- ギターだけでなく、マンドリン、ウクレレ等を加えて楽しい演奏会を開催したい。
- 男女共同参画、特に女性が活動しやすいための意識改革
- 文化芸術の必要性への認識を広める。
- 活動ができるよう声を上げ、理解をしてもらえるよう働きかける。
- 安心して活動ができる場所づくりを目指す。
- 資金の確保
- スポーツを通じた地域コミュニティづくり
- 地域で地域の人々と演劇鑑賞のできる条件の実現のための取り組み（一番の難点は会場問題）
- 文化意識の向上を図る（広報誌・ホームページの対応）。
- 交流センター、学校などでの文化活動に対する協力支援
- 加盟団体作品展などの拡充
- 地域の歴史や文化についての学習会の開催

■活動分野：まちづくり

- 空き家のリノベーションイベント（トーク、スクール等）の開催
- 磐田版空き家フェスタ（仮）…所有者と利用希望者が一堂に会するイベント開催
- 実際の空き家を使ったモデル事業の開催、支援
- 空き家活用のアイデアコンテスト（地元企業やオーナーへのプレゼン、高校生も含め）
- 広く市民に周知し、環境の大切さをPR
- 地域愛を持っていただく事業展開
- 地域の良さを引き出す。住民意識の向上。
- 高齢者社会に入り、テレワークの知識を学ぶ。
- 外出不可な人達との交流（仲間）
- 現活動内容の向上
- ひょうたん池を中心に調整池を含め、市の公園化を行政にお願いしたい。
- 今後ウィズコロナを考えると生活が内向きとなる。スポーツ等イベントを増やし屋外活動をしたい。
- 天竜浜名湖鉄道や地域企業と一緒にイベントが開催できたら良いと思います。

- 現存する降伏軍使支援者の詳細証言の映像記録
- まちおこし、地域づくりにつながる本格的な観光化活動
- 緑十字機不時着に係わる賛同者による緑語会の設立
- 全市へ広げる努力をしているが、遠方からの参加者は少ない。
- 各地で大名行列ができないか、今後取り組んでいきたい。
- バラの管理の講座を開き、良さを知ってもらう（アフターコロナで）。
- ハーブティーを楽しむ会を開き、ハーブの良さを知ってもらう（アフターコロナで）。
- 楽しみながらハーブや香る樹木の良さを知ってもらう。
- 香りのまちって良いなと思ってもらえるような活動をしたい。
- 市内の同じような活動をしている掛塚などと交流
- 市内の歴史探訪
- 子育て支援
- 子どもの居場所づくり
- 大人の居場所づくり
- 人財発掘・人財活用
- ネットワークづくり
- 人口減少・少子高齢化への対応
- 他の地域から若い人達が住んでもらうような対応
- 地域の災害強化「災害に備える」体制づくり
- 消防団員の減少、担い手不足の対応
- 地域住民、諸団体と協働しまちづくり、活気づくりをする。
- 本年はハロウィンをJ Cなどと共催して開催する。
- 正月、府八幡でイベントを行う。
- 活動のP R
- 会員の拡大
- 地域行事役員に積極的に手を挙げ、共生社会の実現を推進する。
- しっぺいのプラモデルの全国展開
- プラモデルを作る会の実施回数の増加
- 子ども向けプラモデルワークショップを色々な施設で展開する。
- 市民のI TリテラシーのU Pを目的としたI T機器の使い方相談会や同様の活動が、各交流センターに広がると良いです。
- シニアクラブの組織を中心に取り組んでいますが、組織にとらわれず、高齢者同士色んな取り組みができないか模索している。
- 市内の連携だけでなく近隣の市内の団体との連携
- 情報交換と活動企画のため小地域ネットワークの立ち上げ
- 自治会との共催でタイムリーな講演会を開催
- 文化・娯楽・園芸など公民館を活用した活動を町内に広げたい。
- 市内の保育園、特養との交流
- 地域の環境に合った情報提供
- 自分で気づいて、いきいきできる場の提供
- 各地域で女性防災委員会を作り、ネットワークを構築する。
- S D G s の推進

■活動分野：環境

- どのような形になるか決まっておきませんが、小中学生を対象にした環境教育活動に取り組みたいと考えております。例としては、太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーの利点について学んでもらえるような環境教育教室などを、オンラインをベースに開催できたら良いと考えております。
- 高齢に伴い人材の募集
- 花壇の水やりが大池川からの水汲みが大変になってきたので、何とか花壇の所に水道をお願いしたいと思っています。
- 安定的な羽化増を目指す。
- 桶ヶ谷沼の復元（復活）、元の沼の復元は困難。
- ミニ桶ヶ谷沼の築造。「沼北部の池を改修し、ミニ桶ヶ谷沼を造成したい」
- 現在活動の継続と拡充
- 児童・生徒への啓発と環境教育
- 海洋プラスチックごみが世界的な課題として取り上げ始めました。一人ひとりの意識の中に啓発できればと考えます。
- 回収したごみは環境課で埋め立て処分しています。埋め立てで良いのか気になります。海へ出る前にプラスチックごみを回収するシステムを構築したい。
- 後処理ではなく、ごみを減らすための前向きな活動
- 不法投棄ごみが少なからずあり、たばこのポイ捨ても多く、防火上問題である。
- 私的な山、大きな木、枝、葉等の伐採は、ボランティア活動では限界があり危険なので、行政の援助をお願いしたい。
- 個人所有の山底にたくさんの不法投棄ごみがあり、週去に 78 袋の大袋で会員が拾った。その後地主が業者に依頼し、かなりの金額を支払った（被害者なのに！）。
- 遊歩道の案内チラシ作成。各地域、コンビニに置いてもらう。
- 森の力再生事業できれいになった森を彩り豊かな森にする。
- 広葉樹の植樹
- 樹木伐採等、大きな部分が対策できれば行政の協力を得られれば…。
- 古代の森、神明宮を含め総括的な活動ができれば。
- 歴史・文化のふるさととなることが夢である。
- 使えるものを処分せざるを得ない場合、必要としてくれる人に届く仕組み
- リサイクルステーションにおもちゃ病院や修理してくれる人がいて、必要な人が安価に手に入れることのできる仕組みづくり
- 磐田市が徳島の上勝町のようにゴミ 0 ミッションができる仕組みづくり
- 複数で 80 歳以上の人が住んでいる家を訪問し、お話をする。
- 花壇の手入れ等、人手が欲しいがなかなか会員が集まらないので、今後は人手を確保したい。
- 現在クラブ員平均年齢 70 歳であるので若手へバトンタッチして継続すること
- クラブ会の懇親会（年 3、4 回）
- 資源回収（年 2、3 回）活動費および自治会活動等への寄付
- ミズリング活動の充実
- ミズリング活動の具体的活動として、河津桜まつり、こいのぼり掲揚など、水辺活動の一層の充実と中川河床の修復を要望し、再び子ども達とアユのつかみ取りを実施したい。
- 新今之浦公園の利用と今ノ浦川堤防の散策憩いの場づくり。今ノ浦川としての水辺の魅力をつくり上げたい。

- 町内道路のごみ、雑草が気になっている。美化に取り組みたいが。
- 町に緑を
- ゆめりあ・磐田駅南口開通記念
- 安久路公園への植樹をしてある。
- 環境のこと、また環境美化など取り組んでいきたい。
- 草刈り
- 大池を知っていただくためのPR

■活動分野：その他

- 老人会員の増強、特に60代、70代の参入
- 高齢者のニーズを探究し、イベントを開催
- 趣味クラブを増やす（生け花、絵手紙、囲碁、麻雀、将棋、俳句）。
- 会員の加入促進
- 避難所の風呂確保
- 他人の意見を否定しないことを原則に、参加者が語り、聞き合っています。
- 話題の大元に「市民自治」を据えています。
- 「投票率の向上」を目指した「センキョ割の活動」を支援・助言しています。
- 月に1回を目途に外部からゲストを招き、それぞれの活動等のお話をいただいています。
- 引き続き、災害を踏まえた、ペットの適正飼育の普及啓発
- 高齢者からのペットの飼育放棄が増加中です。その予防と対策の普及啓発。
- 皆さんが参加したい、またクラブに入会したい、一緒にやってみたいと思えるようなイベントの企画
- 新規クラブの立ち上げ
- シニア・小学生との交流輪投げ大会
- 核兵器廃絶都市宣言による施策への協力
- 幅広い市民活動への宣伝普及活動
- 行政と市民の協同活動
- ZOOMの積極活用による場づくり
- 豊田地区だけでなく、全地区に女性の防災委員がいるようになってほしい。
- コロナが収まってから、60歳代の人達と、とびきり美味しい料理を囲んで、リタイア後のコミュニティについて語り合う。
- サバ飯ワールドカップ、世界中の味付けご飯を炊くイベント

このページは白紙です

(3) 団体が活動（ボランティア活動・NPO活動）をする上での問題点

問8 貴団体が活動（ボランティア活動・NPO活動）をする上での問題点は何ですか？

<○印を3つまで>

活動する上での問題点は、

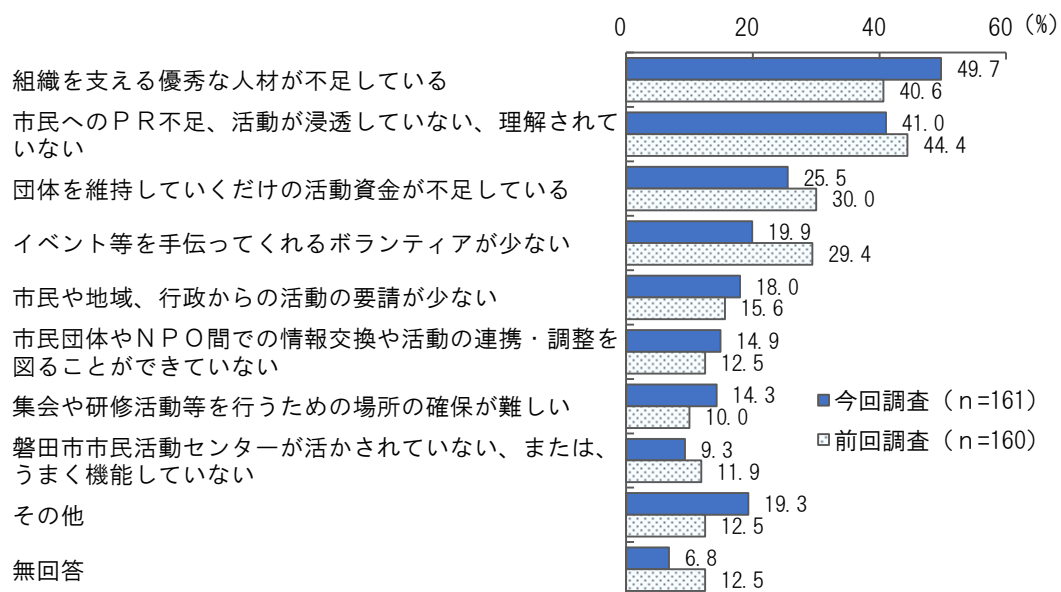
- ・「組織を支える優秀な人材が不足している」
- ・「市民へのPR不足、活動が浸透していない、理解されていない」
- ・「団体を維持していただくだけの活動資金が不足している」

■前回調査との比較

「組織を支える優秀な人材が不足している」が増加し、「イベント等を手伝ってくれるボランティアが少ない」が減少している

■活動分野別の傾向

複数の活動分野で最も多い項目は、「組織を支える優秀な人材が不足している」



■今回調査の結果

- ・「組織を支える優秀な人材が不足している」(49.7%) が最も多く、次いで「市民へのPR不足、活動が浸透していない、理解されていない」(41.0%)、「団体を維持していただくだけの活動資金が不足している」(25.5%) となっている。

■前回調査との比較

- ・「組織を支える優秀な人材が不足している」が9.1ポイント、「集会や研修活動等を行うための場所の確保が難しい」が4.3ポイント増加している。
- ・「イベント等を手伝ってくれるボランティアが少ない」が9.5ポイント、「団体を維持していただくだけの活動資金が不足している」が4.5ポイント減少している。

■活動分野別の傾向

- ・保健・医療・福祉、文化・芸術・スポーツでは「組織を支える優秀な人材が不足している」が最も多く、それぞれ62.3%、55.9%となっている。
- ・子どもの健全育成では「集会や研修活動等を行うための場所の確保が難しい」(35.3%) が最も多い。
- ・まちづくり、その他では「市民へのPR不足、活動が浸透していない、理解されていない」が最も多く、それぞれ55.0%、50.0%となっている。
- ・環境では「イベント等を手伝ってくれるボランティアが少ない」(52.9%) が最も多い。

【活動分野：上位5位のみ】

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
保健・医療・福祉	問題点	組織を支える優秀な人材が不足している	市民へのPR不足、活動が浸透していない、理解されていない	イベント等を手伝ってくれるボランティアが少ない	・団体を維持していただくだけの活動資金が不足している ・市民や地域、行政からの活動の要請が少ない	
	団体	33 団体	22 団体	11 団体	10 団体	
	割合	62.3%	41.5%	20.8%	18.9%	
子どもの健全育成	問題点	集会や研修活動等を行うための場所の確保が難しい	団体を維持していただくだけの活動資金が不足している	・組織を支える優秀な人材が不足している ・市民へのPR不足、活動が浸透していない、理解されていない	市民団体やNPO間での情報交換や活動の連携・調整を図ることができていない	
	団体	6 団体	5 団体	4 団体		3 団体
	割合	35.3%	29.4%	23.5%		17.6%
文化・芸術・スポーツ	問題点	組織を支える優秀な人材が不足している	市民へのPR不足、活動が浸透していない、理解されていない	団体を維持していただくだけの活動資金が不足している	・市民や地域、行政からの活動の要請が少ない ・集会や研修活動等を行うための場所の確保が難しい	
	団体	19 団体	14 団体	11 団体	6 団体	
	割合	55.9%	41.2%	32.4%	17.6%	
まちづくり	問題点	市民へのPR不足、活動が浸透していない、理解されていない	組織を支える優秀な人材が不足している	団体を維持していただくだけの活動資金が不足している	・市民や地域、行政からの活動の要請が少ない ・磐田市市民活動センターが活かされていない、または、うまく機能していない	
	団体	11 団体	10 団体	7 団体	4 団体	
	割合	55.0%	50.0%	35.0%	20.0%	
環境	問題点	イベント等を手伝ってくれるボランティアが少ない	・組織を支える優秀な人材が不足している ・市民へのPR不足、活動が浸透していない、理解されていない	団体を維持していただくだけの活動資金が不足している		・市民や地域、行政からの活動の要請が少ない ・磐田市市民活動センターが活かされていない、または、うまく機能していない
	団体	9 団体	5 団体		4 団体	3 団体
	割合	52.9%	29.4%		23.5%	17.6%
その他	問題点	市民へのPR不足、活動が浸透していない、理解されていない	組織を支える優秀な人材が不足している	・イベント等を手伝ってくれるボランティアが少ない ・団体を維持していただくだけの活動資金が不足している ・市民や地域、行政からの活動の要請が少ない		
	団体	10 団体	9 団体	4 団体		
	割合	50.0%	45.0%	20.0%		

(4) 今後の市民・行政の協働のまちづくりへの関わり方についての考え

問9 貴団体では、今後、市民・行政の協働のまちづくりへの関わり方についてどうお考えですか？ <○印を1つ>

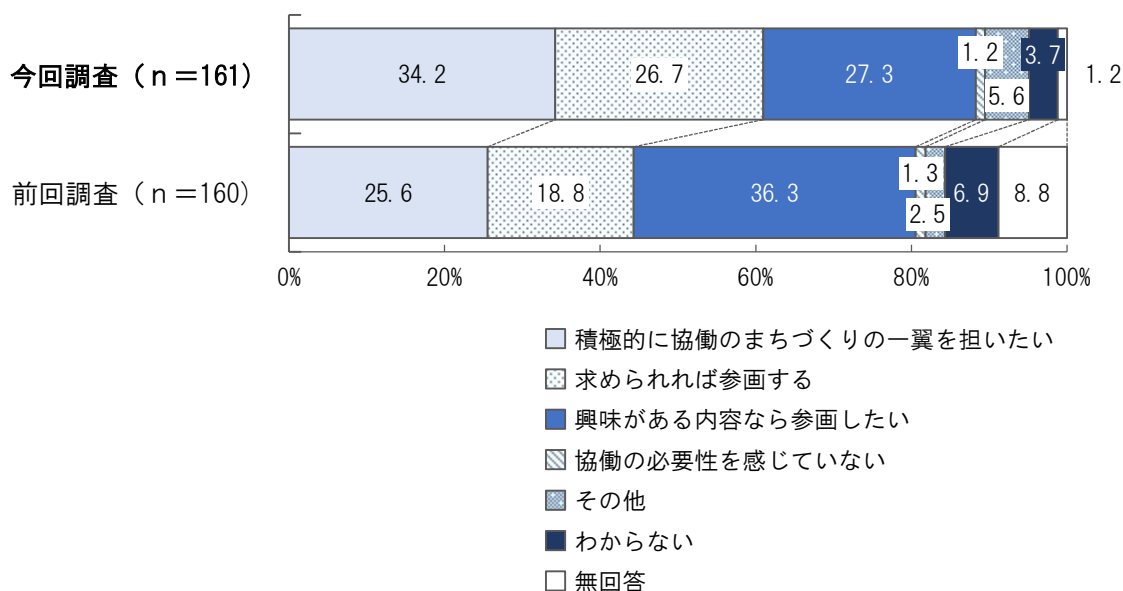
市民・行政の協働のまちづくりへの関わり方は、『参画したい』が約9割

■前回調査と比較

『参画したい』が7.5ポイント増加

■活動分野別の傾向

すべての活動分野で『参画したい』が8割を超えている



■今回調査の結果

- ・「積極的に協働のまちづくりの一翼を担いたい」(34.2%)が最も多く、次いで「興味がある内容なら参画したい」(27.3%)、「求められれば参画する」(26.7%)となっている。
- ・『参画したい』(「積極的に協働のまちづくりの一翼を担いたい」+「興味がある内容なら参画したい」+「求められれば参画する」)が88.2%となっている。

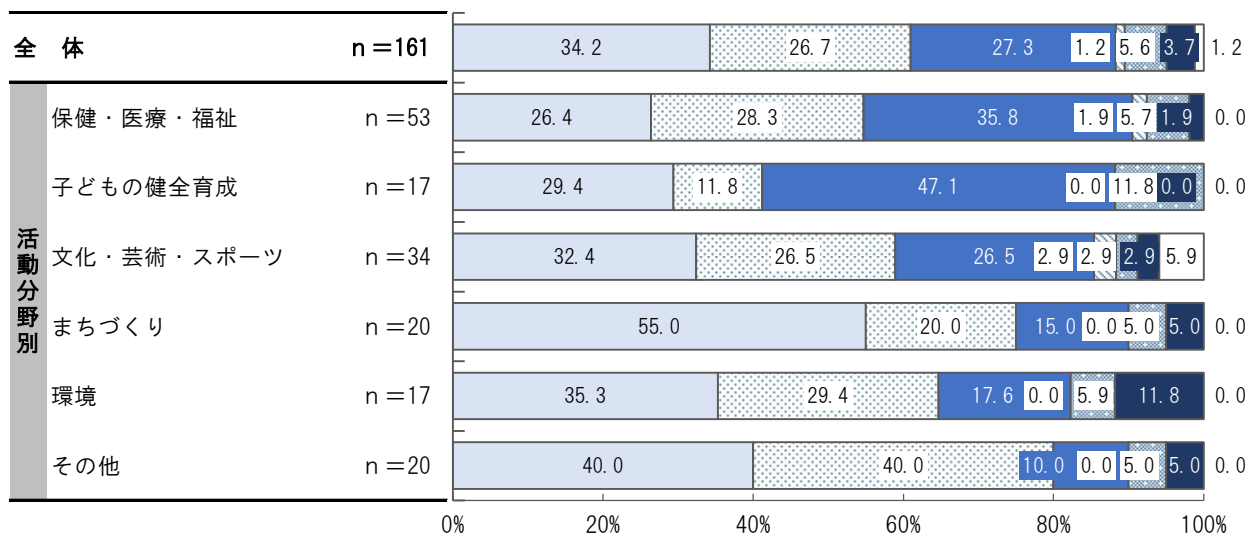
■前回調査との比較

- ・「積極的に協働のまちづくりの一翼を担いたい」「求められれば参画する」が増加しており、「興味がある内容なら参画したい」が9.0ポイント減少している。
- ・『参画したい』が7.5ポイント増加している。

■活動分野別の傾向

- ・保健・医療・福祉、子どもの健全育成では「興味がある内容なら参画したい」が最も多く、それぞれ35.8%、47.1%となっている。
- ・それ以外の活動分野では「積極的に協働のまちづくりの一翼を担いたい」が最も多い。
- ・『参画したい』は、保健・医療・福祉(90.5%)が最も多く、次いでまちづくり(90.0%)、子どもの健全育成(88.3%)となっている。

【活動分野別】



- 積極的に協働のまちづくりの一翼を担いたい
- 求められれば参画する
- 興味がある内容なら参画したい
- 協働の必要性を感じていない
- その他
- わからない
- 無回答

(5) 協働のまちづくりを進める上で重要だと思うこと

問10 協働のまちづくりを進める上でどのようなことが重要だと思いますか？

<○印を2つまで>

協働のまちづくりを進める上で重要なことは、

- ・「市民団体等と市との間での情報の共有化（情報提供、意見交換機会の充実など）」
- ・「活動や組織の強化に対する支援（ボランティアの充実、PR支援、資金調達支援など）」

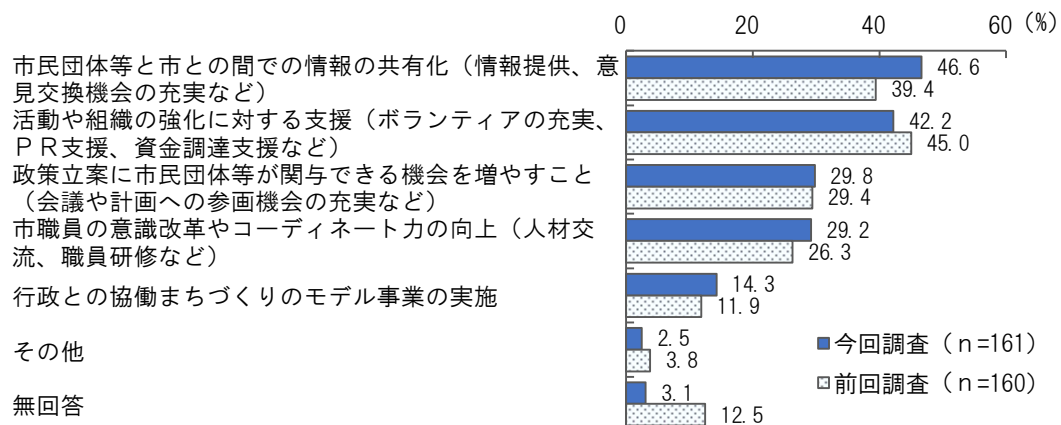
■前回調査と比較

「市民団体等と市との間での情報の共有化（情報提供、意見交換機会の充実など）」が増加し、「活動や組織の強化に対する支援（ボランティアの充実、PR支援、資金調達支援など）」が減少している

■活動分野別の傾向

複数の活動分野で最も多い項目は、

- ・「市民団体等と市との間での情報の共有化（情報提供、意見交換機会の充実など）」
- ・「活動や組織の強化に対する支援（ボランティアの充実、PR支援、資金調達支援など）」



■今回調査の結果

- ・「市民団体等と市との間での情報の共有化（情報提供、意見交換機会の充実など）」（46.6%）が最も多く、次いで「活動や組織の強化に対する支援（ボランティアの充実、PR支援、資金調達支援など）」（42.2%）、「政策立案に市民団体等が関与できる機会を増やすこと（会議や計画への参画機会の充実など）」（29.8%）となっている。

■前回調査との比較

- ・「市民団体等と市との間での情報の共有化（情報提供、意見交換機会の充実など）」が7.2ポイント増加している。
- ・「活動や組織の強化に対する支援（ボランティアの充実、PR支援、資金調達支援など）」が2.8ポイント減少している。

■活動分野別の傾向

- ・保健・医療・福祉、子どもの健全育成では「市民団体等と市との間での情報の共有化（情報提供、意見交換機会の充実など）」が最も多く、それぞれ49.1%、58.8%となっている。
- ・その他では「政策立案に市民団体等が関与できる機会を増やすこと（会議や計画への参画機会の充実など）」（60.0%）が最も多い。
- ・それ以外の活動分野では「活動や組織の強化に対する支援（ボランティアの充実、PR支援、資金調達支援など）」が最も多い。

【活動分野：上位5位のみ】

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
保健・医療・福祉	重要なこと	市民団体等と市との間での情報の共有化（情報提供、意見交換機会の充実など）	活動や組織の強化に対する支援（ボランティアの充実、PR支援、資金調達支援など）	市職員の意識改革やコーディネート力の向上（人材交流、職員研修など）	政策立案に市民団体等が関与できる機会を増やすこと（会議や計画への参画機会の充実など）	行政との協働まちづくりのモデル事業の実施
	団体割合	26団体 49.1%	22団体 41.5%	16団体 30.2%	14団体 26.4%	7団体 13.2%
子どもの健全育成	重要なこと	市民団体等と市との間での情報の共有化（情報提供、意見交換機会の充実など）	・政策立案に市民団体等が関与できる機会を増やすこと（会議や計画への参画機会の充実など） ・活動や組織の強化に対する支援（ボランティアの充実、PR支援、資金調達支援など）	市職員の意識改革やコーディネート力の向上（人材交流、職員研修など）	市職員の意識改革やコーディネート力の向上（人材交流、職員研修など）	行政との協働まちづくりのモデル事業の実施
	団体割合	10団体 58.8%	6団体 35.3%	5団体 29.4%	2団体 11.8%	
文化・芸術・スポーツ	重要なこと	活動や組織の強化に対する支援（ボランティアの充実、PR支援、資金調達支援など）	市民団体等と市との間での情報の共有化（情報提供、意見交換機会の充実など）	市職員の意識改革やコーディネート力の向上（人材交流、職員研修など）	政策立案に市民団体等が関与できる機会を増やすこと（会議や計画への参画機会の充実など）	行政との協働まちづくりのモデル事業の実施
	団体割合	16団体 47.1%	13団体 38.2%	9団体 26.5%	7団体 20.6%	4団体 11.8%
まちづくり	重要なこと	活動や組織の強化に対する支援（ボランティアの充実、PR支援、資金調達支援など）	市民団体等と市との間での情報の共有化（情報提供、意見交換機会の充実など）	市職員の意識改革やコーディネート力の向上（人材交流、職員研修など）	・政策立案に市民団体等が関与できる機会を増やすこと（会議や計画への参画機会の充実など） ・行政との協働まちづくりのモデル事業の実施	
	団体割合	11団体 55.0%	8団体 40.0%	7団体 35.0%	4団体 20.0%	
環境	重要なこと	活動や組織の強化に対する支援（ボランティアの充実、PR支援、資金調達支援など）	市民団体等と市との間での情報の共有化（情報提供、意見交換機会の充実など）	・政策立案に市民団体等が関与できる機会を増やすこと（会議や計画への参画機会の充実など） ・市職員の意識改革やコーディネート力の向上（人材交流、職員研修など）		行政との協働まちづくりのモデル事業の実施
	団体割合	9団体 52.9%	8団体 47.1%	5団体 29.4%	3団体 17.6%	
その他	重要なこと	政策立案に市民団体等が関与できる機会を増やすこと（会議や計画への参画機会の充実など）	市民団体等と市との間での情報の共有化（情報提供、意見交換機会の充実など）	市職員の意識改革やコーディネート力の向上（人材交流、職員研修など）	活動や組織の強化に対する支援（ボランティアの充実、PR支援、資金調達支援など）	行政との協働まちづくりのモデル事業の実施
	団体割合	12団体 60.0%	10団体 50.0%	5団体 25.0%	4団体 20.0%	3団体 15.0%

5. 新型コロナウイルス感染症について

(1) 新型コロナウイルス感染症により、団体が受けた影響の程度

問 11 新型コロナウイルス感染症により、貴団体はどの程度の影響を受けましたか？

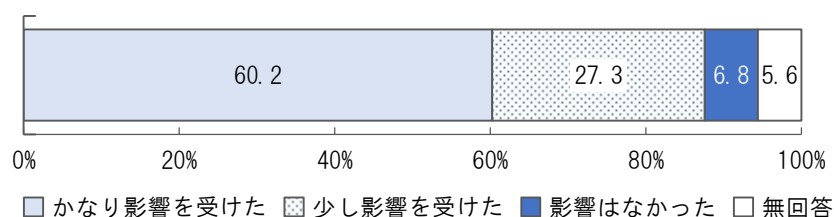
<○印を1つ>

新型コロナウイルス感染症の『影響を受けた』は約 9 割

■活動分野別の傾向

最も影響をうけた活動分野は、「子どもの健全育成」

今回調査 (n=161)



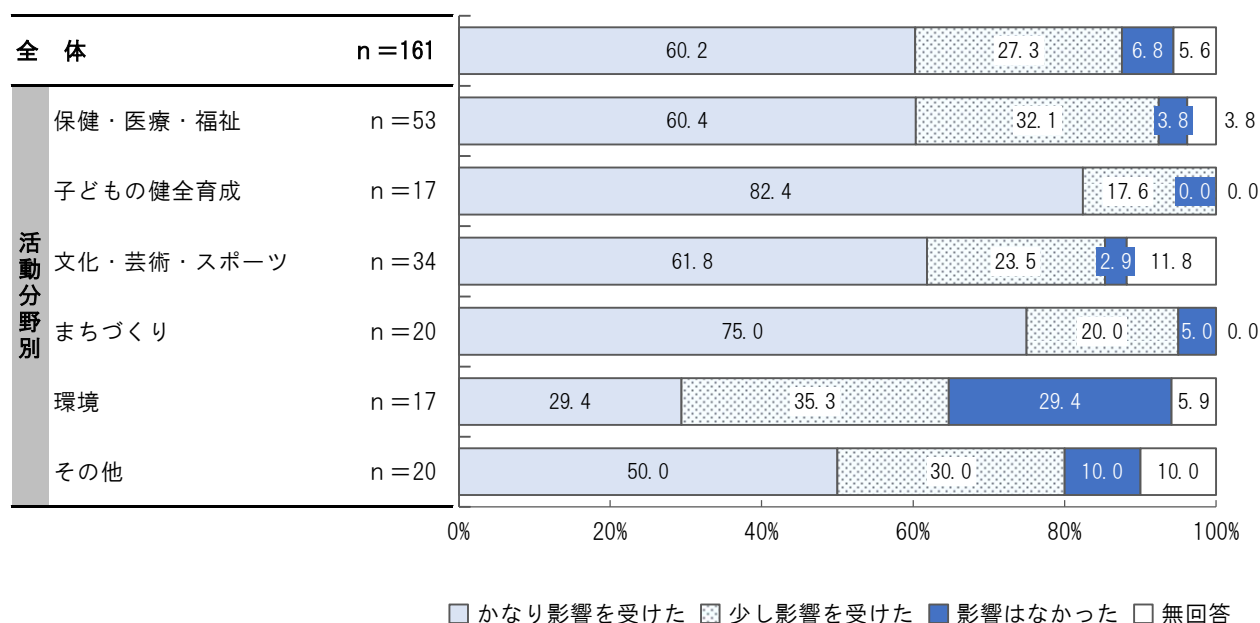
■今回調査の結果

- ・「かなり影響を受けた」(60.2%) が最も多く、次いで「少し影響を受けた」(27.3%)、「影響はなかった」(6.8%) となっている。
- ・『影響を受けた』(「かなり影響を受けた」+「少し影響を受けた」) は、87.6%となっている。

■活動分野別の傾向

- ・環境では「少し影響を受けた」(35.3%) が最も多い。
- ・それ以外の活動分野では「かなり影響を受けた」が最も多い。

【活動分野別】



このページは白紙です

(2) 団体が受けた新型コロナウイルス感染症による影響の具体的な内容

(問11で「かなり影響を受けた」又は「少し影響を受けた」と回答した方のみ)

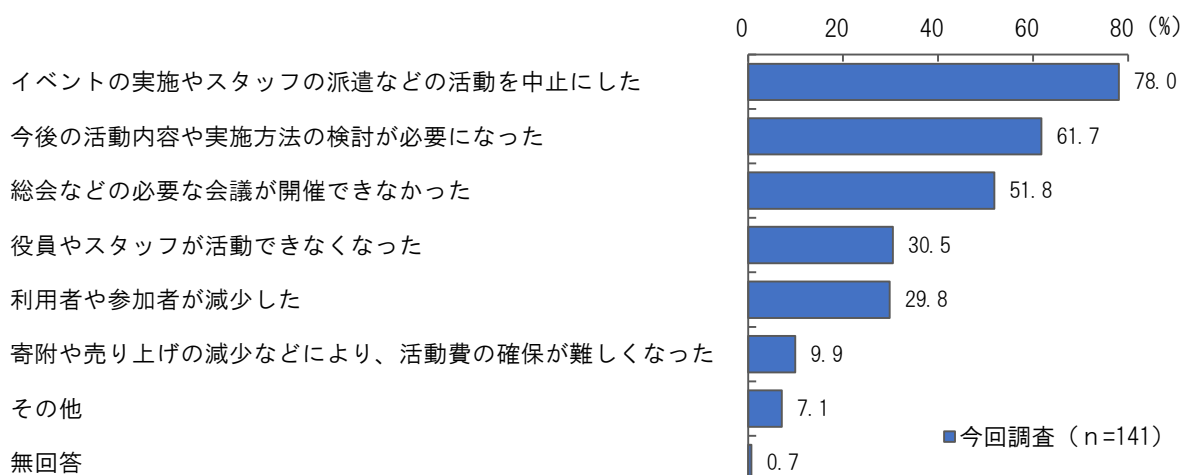
問12 具体的にどのような影響がありましたか？〈該当するものすべてに○印〉

影響を受けた具体的な内容は、

- ・「イベントの実施やスタッフの派遣などの活動を中止にした」
- ・「今後の活動内容や実施方法の検討が必要になった」
- ・「総会などの必要な会議が開催できなかった」

■活動分野別の傾向

複数の活動分野で最も多い項目は、「イベントの実施やスタッフの派遣などの活動を中止にした」



■今回調査の結果

- ・「イベントの実施やスタッフの派遣などの活動を中止にした」(78.0%)が最も多く、次いで「今後の活動内容や実施方法の検討が必要になった」(61.7%)、「総会などの必要な会議が開催できなかった」(51.8%)となっている。

■活動分野別の傾向

- ・子どもの健全育成では「今後の活動内容や実施方法の検討が必要になった」(70.6%)が最も多い。
- ・環境では「総会などの必要な会議が開催できなかった」(63.6%)が最も多い。
- ・それ以外の活動分野では「イベントの実施やスタッフの派遣などの活動を中止にした」が最も多い。

【活動分野：上位5位のみ】

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
保健・医療・福祉	影響	イベントの実施やスタッフの派遣などの活動を中止にした	今後の活動内容や実施方法の検討が必要になった	総会などの必要な会議が開催できなかった	役員やスタッフが活動できなくなった	利用者や参加者が減少した
	団体割合	37団体 75.5%	32団体 65.3%	29団体 59.2%	15団体 30.6%	14団体 28.6%
子どもの健全育成	影響	今後の活動内容や実施方法の検討が必要になった	イベントの実施やスタッフの派遣などの活動を中止にした	イベントの実施やスタッフの派遣などの活動を中止にした	役員やスタッフが活動できなくなった	利用者や参加者が減少した
	団体割合	12団体 70.6%	11団体 64.7%	9団体 52.9%	7団体 41.2%	5団体 29.4%
文化・芸術・スポーツ	影響	イベントの実施やスタッフの派遣などの活動を中止にした	今後の活動内容や実施方法の検討が必要になった	総会などの必要な会議が開催できなかった	利用者や参加者が減少した	役員やスタッフが活動できなくなった
	団体割合	26団体 89.7%	17団体 58.6%	11団体 37.9%	8団体 27.6%	7団体 24.1%
まちづくり	影響	イベントの実施やスタッフの派遣などの活動を中止にした	今後の活動内容や実施方法の検討が必要になった	総会などの必要な会議が開催できなかった	役員やスタッフが活動できなくなった	利用者や参加者が減少した
	団体割合	16団体 84.2%	10団体 52.6%	9団体 47.4%	7団体 36.8%	6団体 31.6%
環境	影響	総会などの必要な会議が開催できなかった	・イベントの実施やスタッフの派遣などの活動を中止にした ・今後の活動内容や実施方法の検討が必要になった		利用者や参加者が減少した	役員やスタッフが活動できなくなった
	団体割合	7団体 63.6%		6団体 54.5%	3団体 27.3%	2団体 18.2%
その他	影響	イベントの実施やスタッフの派遣などの活動を中止にした	今後の活動内容や実施方法の検討が必要になった	総会などの必要な会議が開催できなかった	利用者や参加者が減少した	役員やスタッフが活動できなくなった
	団体割合	14団体 87.5%	10団体 62.5%	8団体 50.0%	6団体 37.5%	5団体 31.3%

(3) 今後活動していくうえでの対策や工夫

問 13 今後活動していくうえで、どのような対策や工夫をしていますか？

【以下、回答者ごとに罫線で区切り掲載】

■活動分野：保健・医療・福祉

- 我団体は特定NPOでありJICA等の予算も取ったりオーナーの出費で国際協力を行い、ライフサイエンスの専門家が行う人畜共通医療の提供であります。
- 市民が製造業のグローバル化による人類のQOLの低下を、身をもって分かるような情報発信をしていく予定。
- 以前と変わりなく、マスクの着用、アルコール消毒、換気の励行をしていく。
- 自分達で運営ができることを基本とし、維持して取り組んでいけるように安定した収入を確保していく。
- 補助金や寄付金での運営は最小限にしていく。
- 精神障がいや家族会の告知活動として、広報へのイベント開催などに加え、インターネットへのホームページ掲載中。若い家族対象（スマホ）。
- コロナを機に、例会等への参加者が激減した。高齢化が大きな要因でもある。これらの家族が自宅で参加できるようにオンライン会議を検討中です。ZOOMを使って実現しようとしていますが、まずは格安スマホを購入・使わせることに苦勞しています。
- シニアクラブの活動は、新型コロナウイルス感染症防止の3密になりやすい。そこで基本的な新しい生活様式に則り、マスク着用。手洗いの励行、ソーシャルディスタンス、換気等に配慮して行動する。
- 参加人数を調整し、3密にならない配慮で活動をする。
- 人数が増加する事業は、大きなゆとりある部屋を確保。
- 常に扇風機等の使用で換気に努める。
- 必要不可欠な案件がない場合、定例会は休会とする（常時活動は継続して行うものとする）。
- 活動や外出が制限されて体力が落ちた。
- 人との接触、3密を避けるため活動ができない。
- マスク着用のため、熱中症などの心配がある。
- 早くワクチンができてほしい。
- リモートなどの会議の実施
- 当面は活動休止し、今後に備える。
- 手話サークルはグループで手話をマスターするので個々は難しい。
- 学校訪問等は、フェイスシールド着用で学校からの依頼は受けて実施しています。
- 手話勉強もゲームに短文を入れ表現する方法で楽しく覚えるように、月1回は「ゲームで手話」を実施する。
- 減少したスタッフに見合った活動にする。
- メンバーの高齢化もあるため、孤立することがないように声掛けをしている。
- サロンがマンネリにならないように、メンバーが新しい技術を習得。
- 感染症の沈静が長引くと活動を辞める人が出る恐れがあり、リーダー始め声掛けをして脱落者を出さぬ工夫が必要。
- 受け入れ先の要望に合わせて、活動の人数や内容を制限している。
- 感染しないための行動をお願いします。
- 会合に関してはテレミーティングのトライを検討中。
- 人材確保を急ぎたい。
- 室内での活動なので密を避ける、換気をする（窓を開ける）。

- マスク・消毒・検温する。昼食は止める（午前中だけの活動）。
- お茶は提供せず、自分の飲料を持ってきてもらう。
- 手洗いの徹底
- マスクの着用
- 基本的な衛生管理
- 今は実際に何も活動できていないのが現状です。
- 面会はなるべくせず、電話連絡にしている。
- 濃密を避け席の間隔を空けて会合を持つ。
- 必要以外の講習会等は中止にしている。
- 高齢会員が多いため、自身の体力温存に努める。
- 国や県・市等の指示、要請等に従っていく。
- マスク、手洗い、消毒等常に実施し、自己防衛に努めていく。
- 経済活動と感染防止活動とは相反する実態も多いが、とりあえず感染防止を優先させる。
- 室内行事は役員会のみ
- グラウンド行事を推奨
- スポーツは週2回のペースで続けている。
- 給水休憩や昼食会もグラウンドベンチでやっている。
- 行政方針に従って活動
- サークル会員の年齢層が高いため、感染のリスクが大きいと思われる活動は中止する。
- ウェブや紙資料で連絡を取り、会合は必要最低限にする。
- 要約筆記者は、個々に質の向上を図る。
- マスク着用し3密を順守し大声を出さないこと。
- 今後の感染動向によっては中止も視野に考えています。
- 決められた標準の対策を個人と団体で遵守している。
- 不要不急の会議、事業は行わないようにしている。
- 感染の状況を見ながら、活動再開の時期を検討する。
- 世話人の打合せを行い、方向性を検討する。
- まずは色々な事業に対して人材を発掘して賛同してもらうこと。
- 3密を避け人数制限をしていく。
- 構成しているメンバーが高齢者となってきたので、今後の会、予定をどうしようかと模索している。
- 検温、手洗い、消毒、マスク等の徹底
- イベント実施での3密にならないようにする工夫
- 3密防止、時間の短縮
- 集まれなくてもつながる活動。可能な範囲でつながりの継続をしている。
- ボランティアのやり方を大きく転換しなければならなくなったと思いますが、できることを模索しながら活動していきたい。
- 自治会との連携強化（話し合い）
- 新規会員の掘り起こし
- 現在活動してくださっているボランティアの仲間が続くように、新しく加入して下さる人材も探しています。
- 地域医療をテーマに活動している市民活動団体であるだけに、コロナ禍での情報収集→情報の共有化→情報発信を丁寧に検討し、メンバーのスキルアップにつなげたい。
- これまでの活動の仕方を見直していきたい。

- 障がい者への安全確保と運営体制への強化
- オンラインにおける研修・相談体制への強化
- 感染対策、NPO法人としてのマニュアル化の設置
- 3密にならないように大きい部屋を使用している。
- ZOOMを使い、手話学習をしてみた。
- フェイスマスクの使用
- 人材の確保、退職者の雇用
- 活動休止中も会員とのコミュニケーション確保のため、通信発送
- 活動拠点施設との情報交換
- 本来の活動以外の施設支援活動を探り実施中。
- 3密を防ぐ。
- 透明マスクの使用
- 3密を防ぐように努めている。
- ボランティアが高齢化している。
- 講座が少ない、若い人が見向かない。
- ボランティアに多少の謝金を出す（ゼロはだめ）。
- できる限りの対策をとったうえで行動が継続できるよう活動内容の変更、見直しを行う。
- 今後どのように活動していけば良いのか分からない。
- 対策や工夫などは行政で研究し、成人青年の人でも楽しめることを考えてほしい。
- 社会の中にある、障がいがあっても参加できることにはこれからも参加していく。
- アスペと違って会話でコミュニケーションはとれないということを、チラシなど配布して理解を求めている。
- 活動を再開できる基準条件の公的設定が必要（うかつには行動できないため）

■活動分野：子どもの健全育成

- 人が集まるイベントではなく、家づくりのこと、人、物を知ってもらう発信に力を入れる。
- 体調管理表による徹底対策
- 3密を防ぐ。
- 消毒、手洗い、マスクの徹底
- 総会は当分中止、社員のみ会議実施
- 現在の日本はコロナウイルスに無力であり何の対抗策も持っていない。ワクチンの完成もまだ見えないし、このウイルスを抹消する手段もない中で「今年もふれあい広場を開催しよう」と発言する輩が集まり、市内の各団体にアンケートを送ってくることを、私は理解できない。
- 基本的にアウトドア活動は屋外での活動であり、部外者との接触がなければ大きな問題はない。しかし先月 i プラザの会議室（小さな部屋）で相談活動をしているのを見たが、これを見ていると「市は何を考えているんだ？」と思った。3密の意味を知っていたら、あんな狭い部屋で扉を閉め切った行動はありえない。
- 社会常識の範囲内での活動を当面計画していく。
- 回数を少なくして内容を充実させる。
- 上部組織より指導を受け、内容の検討をして活動の実施
- 3密を考慮し野外活動の充実を図る。
- コロナ禍でも必要としている子ども、親、祖父母は増加してきていると思われるので「3密」に十分配慮しながら企画・実施していく予定である。

- 野外活動中でもお互いに間隔を空けての活動をする。
- キャンピングでは個人テントの使用、食器の共用もしない。
- 交流センター使用の際は、換気に注意する。
- 長時間の活動を避ける。
- まだ模索中です。
- 子ども対象の活動が主なので、しばらくイベント等は行わずに団体でできることをする予定です。
- コロナの収束を見計らって活動を再開する。
- リモートによる取り組み（取材、発表など）
- オンラインでの仕組化を図っている。
- リアルとオンラインどちらでも対応できる仕組みづくり
- 行政との連携

■活動分野：文化・芸術・スポーツ

- コロナの拡大状況を考えつつ、安全・健康第一に進める。
- 思い切って行事を断念することも大切
- 高齢者、年少者、障がい者、いわゆる弱者への支援
- 災害やコロナなどでの避難所での過ごし方の対策は急務。
- 会員の確保（機会あるごとに勧誘）
- 地域の交流センターとのコラボレーション
- 活動がスムーズに実施できるよう会員の増員、充実を図りたい。
- マスクの充実
- 手洗いの充実
- 子ども達のウイルス感染対策を現在検討中です。
- 会議などでのネットの活用
- コロナ対策の厳守
- 練習中の3密を避ける。
- 練習前の健康チェック、検温
- 健康管理の記録を取り、残す。
- 他団体とのコミュニケーションをとる。
- 10人以内での少人数の会合に変更
- 紙上の総会にして意見募集をした。
- スケッチ旅行・研修の中止
- 対策や工夫をしても、感染のリスクはあるので、しばらく活動を休止する。
- 新型コロナ対策をして実施していきたい。
- 新型コロナ対策をして実施していきたい。
- 当面はプラモデルを作る会への新規参加者の受け入れを停止。
- オンラインでの情報交換など。
- 主催イベント時、参加者募集の人数制限、連絡先、住所、電話の事前確認、当日の検温などをするようにしている。
- コロナに対して3密を避け、消毒、空気の対策等、十分に気を付ける。
- 花展の充実で伝統文化の素晴らしさをPRする。
- やはり、ウィズコロナでいくしかないでしょう。マスクや3密対策を続ける以外ないと思います。

- 各団体から活動要請を受け、それを基に活動しております。現在までは要請がゼロです。下期では少しずつ要請があるので、3密を避けるために会のルールを検討中です。このルールを基に主催者と話し合っていきます。
- 密接を避ける。
- マスクの着用
- 手洗い、うがいの励行（手指の消毒）
- フェイスシールドの着用（必要なら）
- 地域の学校が休校になったら中断します。それ以外は実施します。
- 私の支部の役員は任期2年の輪番制なので、対策や工夫をする余裕がありません。
- 感染状況を知り、周囲の理解の度合いを見て活動するかどうか判断していく。
- 楽団員のソーシャルディスタンス（間を空ける）。
- 紙芝居は密集するのでパワーポイントで画面を大きくして実施する。
- 話す折、マスク、フェイスシールドを使用する。
- これまでの参加者への現状報告の周知
- 計画中の講座の時期の見直し
- 会議室を密にならぬように、広くできるよう予約の取り直し
- なぜ必要な活動なのかを話す機会を少しずつ増やしている。
- オンラインを活用したコミュニティづくり
- オンラインでの提供
- 準備、会合、練習の圧縮や省略
- 状況の変化に応じた柔軟な対応
- 「静岡県のイベント関連におけるチェックリスト」の実践
- 今後の各種行事に際しては自治会と歩調を合わせながら安全対策を第一に活動していきたい。
- 新型コロナウイルスの感染対策、マスク着用や消毒
- 3密対策等のガイドラインを作り、傘下の団体活動はガイドラインに沿って活動

■活動分野：まちづくり

- イベントは屋外で行う。少人数で実施できるものを考える。
- 体温測定器や消毒液などを準備して対応する。
- ウェブサイトやZOOM等を活用します。
- 3密を避けて、実施できる事業をできるタイミングで実施
- ファックスを利用し、現状の説明等を進めている。
- 現状報告とポスティング
- 大池周りの皆さんの御意見を聞き対応したい。
- 大池を市民の皆さんに認知していただくよう、活動を広げたい。磐田市の「大池」となるように。
- 高齢化のため活動内容の減少
- 屋内イベントでは3密にならない対策をしながら活動している。
- 従来取り組んできたイベントの内容（飲食を伴う）を止め、メニューを変える対策。
- 磐田地区でコロナウイルス患者がいなければ、実行委員会のやり方や本番でのコロナウイルス対策方法を確立する。手・指の消毒の実施方法等。
- 3密にならぬよう活動する。
- 浜松市、磐田市の感染者数により活動中止にする。

- コロナ感染が終息しないとどうにもなりません。
- イベントの参加者に新型コロナウイルス対策を徹底させたい。
- 見物人へのコロナ対策は今後要検討。
- 来年は中止ではなく開催のための工夫を探りたい。
- 個人負担を少なくして入会者を増やしたい。
- 会員高齢化や辞めていく人が多く、若い人に入ってもらえるよう楽しめるイベントを増やす。
- ZOOM使用
- オンライン会議
- 活動は3密にならない行動に絞る。
- これまで実施してきた事業の見直し
- コロナ禍で実施可能な事業の創出
- 役員の意識改革
- 職員の意識改革
- 主に防災にして、自主防災活動をより強化するために防災士の育成に対応
- 特にイベント、避難所で活動の担い手として多くの女性の参加（女性防災員）
- 「災害時安否カード」全戸への配布に取り組む。
- 高齢者見守り、高齢者サロン、生活支援、災害時の対応
- コロナ感染症対策をしたイベントの開催
- 本年活動ができなかった他団体との協働の模索
- 令和2年度は57万円の経費が掛かりました。今回のコロナウイルスで25万円不足になります。事業費は削れません。
- 敷地の干し柿をお客様を囲みます。
- 今後の活動の中心ボランティアを高齢者から若者へ引き継げるようなイベントの開催
- コミュニケーションを図るための代表三役の会合と全体の会合を頻繁に行っている。
- 感染防止策の徹底
- 3密の回避

■活動分野：環境

- 各種ミーティングはオンラインで開催。
- 研究開発活動は、なるべく個人ベースで各自の居場所で進められるよう業務を細分化している。
- 途上国の現地とは、オンラインでの人脈づくりに励んでいる。
- 3密を避けた会議、打合せをしたい。
- 3密を避けて無理のないボランティア活動を行う。
- これまでの活動をできるだけ継続していきたい。
- 保全復元活動をより活発に推進（より確かなものに）
- 野外の月1回の活動ですので、特別には考えていません。
- 流れ着いた「使い捨てマスク」の取り扱いには十分注意します。
- 市や交流センター行事や、事業等は中止がほとんどであるが、自治会主催事業や「明治の道を美しくする会」のボランティア活動は今のところ、新型コロナウイルスについては中止等の指示はしていない。
- 周囲の状況に合わせて活動していく。
- 活動中の休憩では、距離（2m）をとって休む。

- マスクをする。
- 実施状況にない。様子見中である。
- 密にならないように席を離して定例会の会議をする。
- 密にならないよう手の消毒、マスクをして回収事業を続ける。
- 3密防止のため、会合等の中止増。
- 会員への連絡が文書となり、一方通行が増。
- 会の役員を訪問しての打合せを多くしている。
- 室外の活動などで3密にならないように気を付けて活動している。
- 3密を避けた屋外での活動は感染予防を行い実施する。
- 代表者会議で活動計画を立て、回覧で周知させる。
- 会員の年齢層が50代以上ということもあり、活動時間は1日90分以内としている（休憩込み）。「ウルトラマンは3分だけど僕らは90分も動く」と笑い合っています。
- 体調の悪い人は無理をしない。参加できなくても謝らない。会員であることこそ大切と申し合わせている。
- 3密を避け、マスク着用、手洗い消毒の徹底を心掛けている。

■活動分野：その他

- 他の県や市の往来の自粛
- マスク、手洗い、うがい、3密の抑制、徹底
- 密にならないようにボランティアの人数を制限したりする。
- イベントを中止する等
- 訪問活動を控える。
- 3密を避けるため、これまで使用していた会場を別の会場にした。
- 消毒も毎回行っている。
- 3密にならぬように活動を行う。
- 磐田市内の感染者数により活動中止にする。
- 感染防止対策の強化
- オンライン会議の実施、会議のみならず日本語教室や講座なども。
- マスク着用、飲み物持参を義務付けた。
- 3密にならないように座席を離し、常に換気に気を付ける。
- お互いのウィズコロナ、アフターコロナ対策を確認し合う。
- 譲渡会開催について注意事項（新生活様式）を掲げ実行する。
- 理由がありマスクを着けられない方の存在、医療従事者や感染者への誹謗中傷を予防する啓発を進めてみたい。
- 最低必要な活動内容の見直し
- 役員、スタッフ等の充実を図る。
- 他団体との協力を検討する。
- 団体仲間の意識改革
- 手洗い、食事、睡眠、軽度の運動
- 人と接する機会がある時には必ずマスク着用。
- 車の中にはいつも予備のマスクを置いておく。
- 会議室は室内の換気、席の間隔に注意し短時間での終了を。
- 体温を常に測定し、体温の高い時や体調のすぐれない時は出席を見合わせる。

- 特別な対策や工夫はありません。行政の指導を守る。
- 特に頻度が高く大人数となる「百歳体操」を当分休止とする。
- 少人数の会合、長時間に渡らない、窓を全開にして換気を心掛ける。
- コロナウイルス感染の現状を正しく知っておくために情報交換に努める。
- 消極的になりフレイルまたは認知症になることを防ぐための活動を進める。
- 毎月ニュースを作成し、役員か担当の会員に届けて会議をする。
- 活動に使用できる場の状況によってクリアする方法を取る。
- 事業計画、打合せ等ZOOMやLINE等を使用してリアルな会合を減らした。
- 講座をオンラインで開催するようにした。
- インターネット、ラインによる通信方法
- 広い会場の確保
- 学習しやすいビデオの活用
- ZOOMの活用
- LINE、Facebookの活用（以前から）
- 行事を延期、または文書にして郵送

6. まちづくり全般について

(1) 自由意見

問 14 これからの磐田市のまちづくりのためのご意見やご提案(アイデア)、夢など、どんなことでも結構ですので、活動分野に関する専門家としてのご意見をお聞かせください。

※自由意見は、活動分野ごとに主な意見を掲載しています。なお原則として、回答された文字のまま表示していますが、一部、誤字脱字の修正、固有名詞等の削除を行っています。

■活動分野：保健・医療・福祉

- 絶対法と概念法の理解について、特に行政に関わる人間は理解を深め市政との協働についてはしっかりした一線を引き、あまり積極的関与はしない方が良くと思う。そのような中においても、教育に関わることは徹底的に行政が関与し、教育現場の安心を与え、国民としての事実に基づく歴史的遺産への興味等を通して、理科系の能力、開発と文系知識の提供を一人ひとりの子どもにバランス良く吸収できるよう、さらなる市政との協働を推進すること。具体的財団の設立を要望します。資金協力もしたいと考えている。
- 具体的すぎてすみません。竜洋海洋公園の一つの遊具が修理されずそのままとなっています。近場で孫達とふれ合おうとした時、とても残念に思いました。少子高齢化に向かう中、子育て支援として(高齢者支援としても)公園の整備、充実は必要と思われます。
- 磐田市の中で活動させていただいている中で、磐田市にとって必要なこと、地域の方にとって必要なことを行うことが大切だと考えています。私達だけでは十分な活動はできません。磐田市を守り、事業所を指導されアドバイスし、相談にのっていただける最も頼れる場所は行政だと思います。ぜひ私達の活動を知っていただき、必要な意見やアドバイスをいただければと思います。
- 私自身もそうでしたが、家族や親類に当事者がいないと「精神障がい」に対して関心を持たないのが普通です。しかし、無関心が誤解や偏見につながって困ります。それゆえに、少しでも良いから精神病や障がい者についての理解がほしい。この告知活動が私達の大きな目標の一つです。精神障がい者は人間関係が難しいし、作業で長続きしないのは事実です。でも、一人前にはほど遠くても仕事(作業)はできます。中には素晴らしい感性を持っている人もいます。これらの能力を活かして職に就ければ…。社会の“お荷物”ではなく“一員”と認知されて生活できればと思います。私個人の夢かも知れませんが、「8050問題」は障がい者でも同じです。高齢化した親が認知症と闘いながら、障がい者の子どもと一緒に暮らす。「老人ホーム」と「グループホーム」が同じ建屋で、機能することはできないのでしょうか。制度上で可能性があるのなら教えてほしいです。
- 施策を策定する場合、市民の人間としての生き方を掴み、実態に即した対策が求められる。①高齢者の多くが他人への依存姿勢が強く、他人任せで、自ら取り組もうとしない。そして面倒なことを排除するため、各地区で地域文化が衰退したり、地域崩壊の状態を呈していたりします(例えば、地区の運動会の廃止、シニアクラブの解散等)。②高齢者の多くに地域社会からの逃避や逸脱の傾向が見られ、会に出たくない、他人に会いたくない、他人と話をしたくない、役はやりたくない、面倒なことはやめちやえ等の社会的フレイル(社会性の虚弱)の者が約8割以上おられます。そのため、シニアクラブやボランティア活動に参加している高齢者は2割程度で、同じ人間が様々な活動に参加しています。この傾向は、全国的なもので、高齢者の意識改革が必要ですが、極めて困難な状況で人間の生き方がそのままです。そこでシニアクラブとしては、少しでも高齢者に自ら取り組むことの大切さが理解されるよう働きかけをしています。③多くの高齢者の傾向として、広報やお知らせを読まない、他人の話や説明は聞かない、回覧板は見ないで回す等です。しかし、自分に直接関係することがあると「聞いていない」と喚く。自分の興味があることには夢中になるが、一般的な情報を知ろうとしないで、勝手な解釈をしています。そのため、手に負えない高齢者がたくさんおられます。

- ①磐田は浜松の人よりも視覚障がいの方にやさしいと、浜松在住の人が言いました。まさしく司馬遼太郎の言う、互いに互いのことを思いやるのが将来的、いや21世紀に生きる者達の努めかもしれません。その源は「人」です。先人達が教育にかけてきた熱意は今後も失ってははいけません。人を育て、人を創り、人と生きる。②荒れた田・家だらけの町、将来も食べて生きなければならぬ私達があまりにも楽な仕事、家への渴望(商業的に踊らされている)の宣伝の結果では。本当に豊かな国とは食糧の自給率が仏国のように100%の国です。さすれば外国から食糧を買う労働から、本当の豊かさ(人によって違ひましょう)の労働へと変わる。徴兵制ならぬ徴農制と言った人がいましたが、コロナの折、考え直す転機が来たと思いませんか。「偉大なる田舎 磐田」を目指しませんか。
- 市民一人ひとりが自分や自分の家族のことだけを考えるのではなく、磐田のまちについて真剣に考え、行動できる仕組みができれば良いと思います。そのために子どもの時から積極的に地域活動に参加すべき教育と、接点の創出、大人になってからも参加することが当たり前である風潮を、行政として作り出してもらえるとNPOなどの活動がもっと盛り上がると思います。
- 子ども達に手話は別世界で、耳の不自由な方には大切な言葉だと、どこの学校に行っても興味を持って聞いて実技を覚えてくれます。手話の仲間があり、身振りも口パクも一緒にやって、思ったより楽しく、手話が好きになったと…。大人に成長し耳に限らず障がいを特別にしない、同じ人としての付き合い方を覚えることで社会に役立つ人間に、弱者に手を差し伸べられる人間になってほしい。そして住みよい明るい磐田を背負ってほしいと願い、老骨にムチ打ち出向いております。
- 市民が幸せを求めて活動、暮らすには何といても健康第一です。特に重要なのは心・精神です。高齢者の課題、働き盛り、青少年、生活、児童、乳幼児の健全なメンタルが肝心です。乳幼児期の養育環境が最も重要で、一生を左右します。それには母親および教育者の心の疲労、軽減が急務です。個別に依頼があつて応じていますが、力が不足しています。技術と仕組みを充実する必要を痛感しています。不登校、引きこもりが大幅減少になるようにしたいです。心育を地道に続けることです。
- メンバーの高齢化ということもあり、活動内容の見直しが必要になってきた。高齢になっても定期的に行く所があるのは良いと思う。子育て支援センターのような場所が必要だと思う。80代、90代になっても元気に外に出向く方もいれば、定年退職して引きこもる方も。小さな子どものように親が外に連れ出せば良いが、高齢の親を仕事している子どもが外に連れ出すのは難しいと思う。安全で簡単に利用できる移動手段が必要だと思う。介護で離職することがないように元気な高齢者を増やす、または磐田に行くと元気になる！健康になる！と言われるようになると良いと思う。メンバーが高齢になってきたため、高齢者の気持ちに沿える活動を見つけ、高齢者の輪を広げられる活動を目指したいと思う。
- ①旧市民会館の改築について。市は昔から学校が多く、習い事も盛んな土地でしたが、敷地も狭いので無理ですね。そこで宿場町らしい趣のある建物で市民が思い思いに芸事を発表できるようになったらいかがでしょうか。②磐田駅前に観光案内所併設で、市の名産品を販売する道の駅風のお店があればと思います。私は駅前バスを利用するので、他市町から来られた方からお土産を買いたいとよく尋ねられます。駅前が少しきれいになると良いですね。
- 高齢者施設の入所者のために年5回ボランティア活動として訪問しています。少ない回数ですが、毎回訪問していて、20名ぐらいの車椅子の方と1時間過ごします。中にはほとんど寝ていて表情がない方も多し、とてもお元気でよく反応してくださる方もいます。全員が喜んで楽しい時間を過ごしていただくことは難しいです。提案できることではないかも知れませんが、表情がない方の中で、そばにご家族がいれば少しだけ表情豊かに過ごせていただけたらと思うと嬉しいです。
- 本当の幸せは、金や財産ではなく、家族・地域の人々とのより良い人間関係にある、とハーバード大学の研究結果に示されています。昔の向こう3軒両隣のレベルで市内の隅々まで良い人間関係のコミュニティができればとても住みよいまちになると思います。障がいの有無、国籍の違いなどにとらわれず、そのような磐田市が実現することを願い、そのためのお手伝いができれば嬉しいです。

- 私達の活動も高齢者が多く、いずれ自然消滅すると思います。いかに若い担い手が重要か、ひしひしと感じます。行政がもう少し手を差し伸べてくれるとありがたいです。何もかも丸投げは止めてください。
- 保育・教育にしっかりとお金をかけて人材確保、設備の充実をすることが、未来をつくっていくと思います。また、障がいのある方、LGBTなど、マイノリティに優しい市であってほしいと思います。それについても子どもの頃からの経験、体験が重要ではないかと思います。
- 免許を返納した人達にも参加してほしいが、交通手段が難しく、簡単に集えるためのバス等を考えたい。デマンド型は面倒くさいです。
- 高齢者が「高齢者は社会の宝」であることの認識不足だと思います。時間と銭、長い経験に基づいた知恵や知識等、大変な財産を有しているにも関わらず、この社会還元や利活用することが少なく、温存していることが多いと思います。まだまだ動けるし、世のため人のため自分のために活用するのは今だと思います。自ら手を挙げ実行することはなかなか難しいことと思われます。かつ高齢者特有の「利己的側面」も十分有しており貴重な財産を温存したままで終わらせないよう、行政主導できっかけづくりをしてほしいと思います。また高齢者は医療や介護、年金や保険など「社会のお荷物」であることを思い知る必要もありそうです。
- 先日、初めて地域づくり協議会の分科会に召集され参加しました。他にも知っているいくつかの会合と同じく、不毛なものでした。議会報告の市の答弁に地域づくり協議会の目的は昔の隣組のような助け合いの姿とありましたが、隣組が最もトラブルがある実態をいくつか知っています。産業の主体が地域の個々にあった昔と違い、今は主体が会社なので昔のような隣組の助け合いのコミュニティは無理な形ではないでしょうか。新しい企画が必要と思います。自治会連合会の最新の会報で目的の項目を挙げていただいています。現場の地域ではこの項目をさらに具体的なものにしないと議論も生まれません。不毛で空回りの会を活性させる、市の将来像を示せるリーダーとなれる、若き市職員を養成してください、市長。
- 公園、運動場の充実。市民が楽しく集まり活動できる場所を作り、磐田に住みたい輪を広げる。
- 居住地区は公共交通機関が利用しにくい所です。免許を返納し、今後高齢になった時、日常の行動が制限されるのではないかと不安です。徒歩圏にバスの停留所がほしいです。以前、利用者が少ないため廃止されてしまいましたが、JR駅まで数十分かかるのでは乗りません。毎日ではなく、コース別に曜日を変えて運行するでも良いので、JRの時刻に合わせてバスに乗れるという利便性をご一考いただきたいです。オンデマンドのタクシーもありますが、予約が必要で、狭い空間に見知らぬ人と一緒では利用を控えようという気持ちもあります。専門分野からは外れました、すみません。
- 私は既に80歳を越した高齢者ですが、現代の若者は相対的に行動が消極的になってきている気がします。感じるものがあつたら進んで意見を出し議論しましょう。積極的な行動なくて当市の発展は叶いません。皆で頑張りましょう。
- 小地域ネットワークを実施して良好となった地域の実例を紹介してほしい。
- 少子高齢多死社会を迎えています。「住み慣れた地域で安心して暮らし続けたい」誰もが持っている思いです。これは福祉・医療の専門職だけで実現できるものではありません、日常の中で、関わる様々な方々が連携し、面としてサポートし合える環境や関係、ネットワークづくりが求められてきます。一人ではできないけれど、皆で力を合わせればきっと何かできるはず。「地域共生社会」のためには新たなネットワークモデルが必要です。まちづくりを目的とした趣旨に賛同した企業・事業所・施設・病院等が金銭、人材の支援を行い、一緒に汗を流しつくり上げていくことが必要であると思っています。
- 市議員の意識の墮落。全員で一丸となりもっと意識をもってほしい。公務員としての自覚が足りない。型から入ってもどうしようもないと思います。市長との会話をしても質問に対して返事なし。
- 毎日ご苦勞様です。まちづくりとのご意見ですので、まずは各地区、支部、自治会の中には多少なり専門技術者(先生)がいると思います。その中の人物をまず掘り起こし、意見を参考にすると良いのではないかと。また事業によっては異なる場合はあると思います。

- 多岐にわたってボランティアの活動内容が分かれているため、自分達がどの分野での活動が合っているか等知りたい。ボラ連での活動内容等の分類が結構分かりやすいと思われる（組織のあり方、構図）。
- 磐田市は小さなNPOで専門的な分野で活躍されている方（マンパワー）が多いと感じます。しかし専門家としてのその方々が次の世代へ伝えていく体制が取れておらず、その人がいなくなってしまうとせっかくの良いものや取り組みが継続できなくなってしまいます。市内の、特に福祉においてはそう感じる人が多いです。磐田市は福祉でもNPOの法人が多く、社会福祉法人が少ないです。それぞれの事業所が小さいながら、いっぱい、いっぱいでの事業を展開しております。財団や民間の株式会社の方が恵まれた環境にあるのが残念です。「磐田は住みやすい」「暮らしやすい」といった方向性は、小さな団体である私達も思うところです。小さな事業所や専門的に特化できる人達をフルに活用していければと思います。
- 老人に携帯のGPSの貸与（有料？）。希望者全員にPCR検査。
- 高齢者にも安心して暮らせる地域であるように。免許証返納で買い物やお医者さんへ行くのに困っています。デマンドタクシーを利用していますが、運行時間が少なく、行く場所も限られているのでもっと利便性を考えてください。
- 地域づくり協議会が設立されましたが、十分な活動が見受けられません。今後どのように進めていくのか聞きたいです。
- 設立以前より、事業及び設立方法について市民活動センターの立場で相談を受けていた。市民活動団体として設立したものの、運営についてはサポート役であった健康増進課も苦慮していた。平成28年度より代表を交代し、「連携・協働のあり方」を念頭に据え、中間支援的に活動し、仲間意識の共有化を図っていくために運営面での創意工夫と協議決定を軸に活動してきている。そのためコロナ禍においても当団体の目的を考え、活動そのものは実施してきた。一市民団体が行政と事業者との中間的な活動の仕方を模索してきたことは、今後の市内におけるテーマ型のNPO活動をしている方々へは伝えていく役割があると考えている。とかく歴史ある団体は行政への要求が多い。「連携・協働」の学習不足であると考えているが、それぞれの団体が自ら気付いていかないと押し付けになる点が難しいであろう。
- 磐田市と社協との連携が見えない。共にできることもある。子どものことに関しては十分に対策されているが、障がい者、高齢者にやさしい市ではない（冷たい）。子どもがいない家庭には住みにくいまち。磐田市で活動しているボランティア団体がどのくらいいて、どのように活動しているのか職員も知らない人が多い。そのための発信する方法、磐田は元気！！といえるまちづくりをしなければ総合計画を作成しても無駄。職員がボランティアに興味を薄い。興味を持たせる。資格がないけど手伝いたい、何かしたいと思っている人をどう活用するか、それがなければ盛り上がっていかない。子どもも高齢者も障がい者もみんな元気！！な磐田市になるように、各ボランティア団体を活用してください。活用できる場を作ってください。どんな形でもきつとたくさんの力を注げば何でもできると思います。新しい生活方式での第2次磐田市総合計画に期待します。
- 今まで市の要請を受けて社会資源を増やしてきましたが、福祉へも大企業が参入してきました。私達のような小さなNPOはとても太刀打ちできません。事業を縮小して、地域のためにやれることを続けていきます。
- 法人運営の福祉施設は法人に任せるものとしても、行政、現場、現状を具体的に体験して認識することが必要ではないでしょうか。福祉従事者の待遇改善等、大変な仕事を担っている方々に張り合いを感じていただけるよう、積極的、継続的な働きかけをしていただきたい。
- 聴覚障がい者が日常生活で不自由さを感じたり、不利益を被ったりすることがないように、各施設、商店にタブレットによる遠隔手話通訳ができるようにする。
- 私が所属するのは福祉に関する団体です。障がい児者を理解するためには、どういった障がいかを正しく知り、どのようなサポートが必要かを知ることが第一だと思っています。その意味からも、市内の小学4年生が「福祉」について学んでいることは、とても良い取り組みだと思います。困っている人に「何かお手伝いできることはありませんか」という声掛け、その対象者は障がい児者に限らず全ての人です。助け合う姿勢を小学生のうちから身に付けていくことで、皆が安心して住みやすいまちと感じられるようになっていけると思います。

- ボランティアの理解。ボランティアを職員にお願いしたい（特に退職された方に）。
- 自閉症、発達障がいと言葉はよく知られるようになってきても、個人差の大きい障がいなので幼児の頃とあまり変わりなく社会で生活していくことは難しい。経験から学ぶのが一番分かりやすいので、家でできることは会員それぞれが努力して教えて今に至っている。社会の中に成人した自閉症の人の居場所をつくって、いつまでも母親が見て当たり前、障がいがあるんだから！という社会全体の考え方を変えていくことができたらありがたいと思っています。動けるから！働いているのに！元気じゃない！と言われてそれはそれで現実ですからありがたいことですが、脳機能の障がいなので困ることばかりです。正しい理解が広がるのを、居場所をつくって、一人ひとりの個性を分かっていたらありがたいです。
- 帰りに帰れない大学生に磐田の品を送って元気づけた。事業はこれから減少する人口に大変良い試みであり、温かい心が伝わったと思いきい嬉しい事業でした。その反面、行くに行けない大学生はオンライン授業また後期もオンラインです。心折れて涙している人も多くあります。
- 磐田市駅のリニューアルが必要。駅と商業施設が一体となった施設づくりが必要。天平文化を表している駅だと思えますが、若者にはトタン屋根でできた貧相な駅に見えて仕方がない。全国から来るサッカーファンの目にはどのように映るでしょう。電車が来るまでの土産物センターなど人を呼び込む発想が必要です。

■活動分野：子どもの健全育成

- 私が住む豊岡地区は、来年夏にスマートインターがオープンします。これからは住む場所ではなく、一人ひとりの個性ある能力を発信し、必要とされる世界中のどこかでマッチングできれば商売になる時代です。豊岡地区に住み、ニューヨークやパリ、世界中の優秀な人達とつながることができるベースを作ることができたら嬉しいです。これから急激に変わる世界の中で、地元の足元だけではなく、世界へ目を向けて努力していく子ども達が、都会に負けない情報に触れられるように支援していただけたら嬉しいです。
- 市のまちづくりといっても南北に長く生活環境、自然環境が大きく異なる地域性がある。利便性はこれ以上不必要。福祉も過度には要らない。産業誘致したら人口増につなげることも同時にやること。組織をこれ以上集約しないこと（中央にしか目が届かない。声の大ききなところを優先してしまう、など）。国が地域を活性化させる施策（進んでいないが）を推進することと、市・県が漁業、林業地帯を考慮することと同じである。最近特に目立つことばかり力を入れているようだが、その地に生きる人々と自然を大切に考えるのもと、市として何をすべきか考えてほしい。どんな環境下でも人々が協力し合って生きることが不可欠のように思う。
- 農村部に農業従事者がほとんどない不思議なまち、いわた。農村部の小中学生ですら農作業の経験がない。車による職場への移動が活発で、渋滞、交通事故のリスクが減らない。下水道整備が進む中、住宅地面積に負担金が課せられるのはいかなものか。住宅面積に変更を。簡易水道組合の水道料金の改正を願う。16ミリ管を設置するとメーターの読み（水道使用量）料金にプラス200円を水道料金として徴収している現状。
- 幼児と高齢者の融合施設に、障がい児の就労施設を追加させ、その家族も一緒に生活できる「村」スタイルのふれあい生活園をつくる（お互いに助け合い、隣人とのコミュニケーションをとる健全な居住環境を作り上げ、これにより人口の増加を達成する）。ただし、この運営は自治会や行政が行い、業者に委託はしない。我々は「人口の増加」と共に「外部への出費を抑える」ことも考えるべき。今までの磐田は弱者に冷たすぎた。
- 組織の一員としての人材養成が重要と考えます。人格形成の上で必要な教育を子ども達と一緒に創り上げていければと考えます。健康維持のため、野外での活動を優先に考えたい。
- 子ども達の自発的活動を促すための集会を計画する。役割分担等、責任ある行動の勧め、良き社会人への目標等を成人が考え健全育成のための行動を実施する。これからの社会、自然の中での活動が再認識されると思う。

- NPO法人格をもっている団体で設立したものの、代表者が交代していくとなかなかつながっていかない現実がある。また、解散したNPO法人もあるため、機会があれば団体としての見直し（目的、事業内容など）を図っていききたい。コロナ禍でもあるので、今は粛々と活動を続けていながら方策を見出しつつありである。専門家集団でもあるので、政策提案的な方向に持っていける団体でありたい。団体間での連携、協働のあり方はなかなか難しく、提案事業のようなモデルを作っていないと意識がネットワークにつながりにくいように感じている。
- 読み聞かせのボランティア。学校からの要望があった時にボランティアとして活動ができるため、コロナが収束しないことには、小中学校からのお話がないところです。1学期はお話がなかったため、2学期からの活動になると思います。また元のようにマスクをすることなく、コロナが収束することを祈ります。
- 市民が各々に活動していること、ボランティアを充実させ、各々の活動を点から面に広げ、結び、市政に生かされる市民の声を届けたい。私達活動もその一助になりたいと思う。
- 内容（具体例）が積極性に欠けているように感じました。多くの住民、年代、立場の意見や思いを取り入れ、政策立案に反映していただけたらと思います。例えば支援センターで言うなら、少数の同意見の方との意見交換らしきものが新聞で取り上げられていましたが、多くの市民がその会談について疑問を持ちました。声を上げ偏った意見だけに耳を傾けるといった流れに疑問と危機感を感じました。
- ①地域の図書館を増やす。人口集中地域に文化の拠点づくりとして地域図書館が必要。中泉地区だけでは「天平のまち」の学習センターを地域図書館に移行。蔵書の質と量（書架）を増やして利用者の人気と信頼を得られれば図書の出し出しが増えて循環することで、周囲の商店街が活気づくと思う。御厨～明ヶ島付近には、図書館を中心とした複合施設。市民活動センター、国際交流、男女共同参画、子育て支援センター、ボランティアセンター、市役所出張所、各種相談室やギャラリー、カフェ等（会議室、図書を利用できる）。地域の特性から企業のためのビジネス支援図書館として活用できる。歴史文書館は博物館へ、公文書館は中央図書館に隣接して吸収。資料データはオンライン化する。②博物館づくり。埋蔵文化財センターを博物館として磐田原台地へ移設。照葉樹林の森の中に設け、古墳見学や古代体験、アウトドア体験講座を実施。市民ギャラリー、グッズ、地元物産販売で観光バスに立ち寄ってもらう。森の中のライブコンサート空間を作る。③食べ物づくりと健康づくり。磐田原台地付近にバイオや自然食品（有機栽培）の研究所を作り、農業の効率化を図る。磐田駅～敷地駅、御厨駅を拠点に博物館、国分寺、古墳、社山城、桶ヶ谷沼などを巡るサイクリングロードを作り、青少年と高齢者の健康づくりを図る。④地域の文化づくり。磐田市には優秀な人材がいます。スポーツ選手だけでなく映画や芝居など文化面で活躍している人が、地域文化を育てるために指導してもらえないか。また市民と共に映画や芝居を作り出せば素晴らしい。以上は私の夢を述べたものです。
- 幸せな大人に育ってほしい思いで述べます。磐田市の高校、大学のキャリア教育をサポートさせていただきたい。県立・私立の壁があるが、そこをオール磐田で組みたい。大人が子どもの話を1対1で聞いて受け止めるトークフォークダンスを中学全校で。妊婦さんに子どもとの向き合い方、キャリア教育視点での対応の仕方を考えてもらい学び合える場づくり。市内幼保の、対子どもと対保護者のプログラム。市内小中の先生方へのプログラム、相談。どこに行っても通用する力（ポータブルスキル）、転んでも立ち上がる力（レジリエンス）、やり抜く力（グリット）を身に付ける塾運営。社長さんと学生の対話、バカになる場、考え抜く掘り下げる場づくり。今がその後の人生にどう関わるか。若者や生活困窮者の就労支援をしています。コミュニティスクールディレクターとキャリア教育の講師をしています。福祉の現場、教育の現場にいて見えてくることは、“幸せな大人ってどんな大人だろうか？”、“そのためには何が必要だろうか？”自己肯定感がしっかりと育ち、自分に対しても他人や社会に対しても、信頼貯金を貯めていく生き方ができれば良いのかなと思えるようになりました。お世話になっている磐田市に何ができるか、さらに模索中です。
- 市と行政がビジョンを共有できる場を作ってほしい。できないのではなく、できるを前提にした話し合いができる市になると良いと思います。子どもを第一に考えるまちづくりをしていきたい。自分達の利益を考え優先するのではなく、10年、20年、30年先を考えたまちづくりをしていきたいです。

■活動分野：文化・芸術・スポーツ

- ①シニアクラブに所属しているが、ユニークな力や専門的な知識や技術を持っている人も多い。人材の活用場面を市でも設定してくれると頑張るのではないかと思う。②高齢者の雇用を多く用意したい。市でも元気で働きたいという意欲を持っている人がいる。シルバーバンク以外のものが必要。③磐田市主催で、その道の達人、名人を招いて、若い人から老人まで対象の講演会を企画すると良い。磐田市では、大正・昭和前半の頃は一流の講師を招いて市民講演会をやっていた記録がある。文化人、科学者、スポーツ、医師など。④市内全域において、バランス良い公共施設の配置、交通網の整備。
- 現状としては、どの団体も役員の受け手がない。ほとんどの団体が高齢化、多様化していて活動が大変。何事も「プライベート・守秘義務」で人間関係が難しい。合併によるスケールメリットは多々ありますが、人間関係は希薄になり、行政もきめ細かさは無理（限界があると思う）と考えています。また、一部の人を除いて多くの住民は積極的に発言しません。しかしながら、予想されている大地震時には日頃の良好な人間関係、地域の「和」が重要なことと思いますので、地道なソフト事業を望んでいます。
- 各分野の活動において人間関係がうまくできる人を確保。自分の住む地域に興味を持っていただく。情報を共有し認識できる人を確保。色々な分野で豊富な知識を持っている人を確保。
- 市町村合併により文化芸術活動が磐田市中心に集中してきていると感じる。市民が平等に活躍、活動できることを念頭に進めてほしい。市民文化会館跡地に市民が集える場所としてほしい。
- 箱物（ホール）は新しいものを作ってから旧建物を使用中止にすべき。今は計画性がない。不便を強要されている現状を行政は分かっていない。
- 絵画のみならず、交流センター等で活動している多くのサークルが市内での発表の場となる。展示場の建設を強くお願いしたい。
- 市内の公園や道路の植え込み等の草刈り、ゴミ拾いを徹底させ、きれいな磐田市をつくってほしい。
- 実質的に活動ができるよう応援してもらいたいと思います。アドバルーンだけではよろしくないと思います。
- 私達は、趣味のプラモデルを通じて地域社会の貢献しようという趣旨で集まった、会員数約40人の団体です。会員には老若男女、ベテランからビギナーまで幅広い人材が揃っています。2019年度は毎月会員が集まって行う「プラモデル制作会」を12回、市内イベントでの子ども向けプラモデル教室を4回実施しました。また、上記以外にも引きこもりの若者の制作会の受け入れや、「しっぺい」のプラモデルの開発などを行っています。今後の目標としては、磐田の子ども達にプラモデルの魅力を広めること、プラモデルを通じて磐田を全国に知ってもらうことを目指して、プラモデル教室の実施回数を増やすこと、「しっぺい」のプラモデル開発と販売、磐田をテーマにした作品の展覧会などに取り組んでいきたいと考えています。また萌えキャラのお茶を開発している市内農家や、模型会社と共同で磐田市のご当地萌えキャラを制作していきます。また、私達は既存のプラモデルを使わずに、プラ板や木材などを使って、カタチあるものなら何でも立体化できるので、他の市民団体等から要請があれば、立体物を制作し提供するなどのコラボレーションもしていきたいと思っています。
- ①磐田市の顔となる観光案内所の拡張・充実を望みます。ららぽーと内の磐田市情報館と同程度の規模で、駐車場併設が必須です。②歴史上貴重な古墳や遺跡が豊富にあるが、広く見られる施設がないので市民の認知は乏しい。現在市内に分散している資料館や文化財センター、竜洋歴史文書館などを統合し、「磐田市博物館」をつくってほしいです。③防災の視点から、50年、100年先を見越して自然災害に安全と思える地盤強固な磐田原台地に新しいまちをつくるという長期計画を考えてほしいです。磐田市立総合病院の近くに市の主要機能を移転し、住宅地造成も進めて、津波・水害・土砂崩れなど災害に遭わないまちづくりをお願いしたいです。災害の後処理で税金を使うより、安全な場所へのまちづくりに税金を使ってください。

- 人口減少、中心市街地問題、災害対策、教育の充実等、多方面に要望があり、それに全て応じるのは事実上不可能であるのは周知の通りです。やはり基本計画の重要性だと思うのですが、当初考えていた内容も年代が経過するにつれ、ずれてきます。その際に素早く見直して修正して行ってほしい。また今後のIT化を考慮した先取りした計画（構想）を策定してほしい。人口減少に対してはコンパクト化を率先して実施し、空き地（民有地）の有効活用、ある程度の制限を加えた民有地開発（利用）、迷惑施設の建設も含めて今後計画を出してほしい。この場合、開発企業に丸投げするのではなく、議会・市役所職員の有志を軸に組織を作り開始する。市有地（公共用地）の利用は、将来のことを踏まえて実施してほしい。計画が出てくることで、待っても構わない。ないから建物を壊して空き地にしてという発想はあまりにも。退職した優秀な人材を活用したらいかがか。
- 磐田は既に「まち」であるし、便利で住みやすいと思いますが、ただ若者はどう思っているか、やはり東京など都会に住んでみたい憧れがあると思います。難しいことですが、若者が磐田はいいな、ずっと住みたいな、と思うためにはある程度若者ニーズに応えることが重要でしょう。まちづくりをしても、職場がなければ若者は定住しません、できません。今後積極的に市内に県外から企業誘致が必要でしょう。市内の高校生が市内に就職する。県外に出ていた大学生等が磐田にリターンしてくれる。そうすれば最高でしょう。長泉町のようになれば、若い人達の考えを聞けることが重要だと思います（学生だけでなく20代、30代くらいの人々の）。
- 高齢者の働く人が多くなり、70歳定年になりつつあります。このためボランティアをやってくれる人（特に男性）が少ないです。一方、健康な高齢者で在宅されている人も多くあります。この人達を社会に参加していただけるようなきっかけづくりを、市・交流センター等で企画していただけるとありがたいです。
- 感染症等の検査所や医療関係（病院、病床、隔離室等）の充実や確保増と、医療従事者や公衆衛生等の現場で活躍する人材の育成と確保も、是非ともお願いしたい。
- 社協に団体登録させていただいていますが、ほとんどが厚生福祉関係の団体ばかりで、メリットも貢献できることもなく、社協に所属することが負担になってきています。活動自体は大好評で来場者から喜ばれていますし、他の交流センターからのお誘いも来ています。ユーザーが広がればまたスタッフも出てくると思いますので、とにかく喜んでいただけるように続ける。これしかありません。
- ボランティア活動をしている人への支援、援助を充実してほしいです。
- 市民文化会館はいつからどのように使えるようになるのですか。私達には情報が伝わってきません。市民が交流センターをもっと使いやすいように対応してくれるようなスタッフの雰囲気づくりが必要だと思います。例えば、中泉交流センター駐車場の混雑の解消、予約を手軽に、1年前からできるようにするなど。
- 浜松が国際ピアノコンクールのまちならば、磐田はギターアンサンブルのまちとしたい。具体的には有名なギタリストやギター演奏団を招く。
- まちづくりの土壌に文化は必須のものであり、人間が成長するための大きな要素。絵本から始まる疑似体験は、他人を思いやる優しさを培い、いじめや差別を生まない社会に通じると思います。コロナ禍でも経済ショックでも、文化芸術は不要不急と考えられがちですが、こういう時だからこそ、文化による心の豊かさや希望を感じる必要があります。市民が文化や芸術に触れる機会を、行政はもっと積極的に推進していただきたい。それは転入者の増加にもつながり、経済の活性化にも及ぶことなのであります。
- 磐田は歴史的にとっても良い場所に位置している。大切なものを後世に残しながら、人の流れを作ることが大事だと考えます。良い場所にありながら生かされていないのがとても残念です。磐田で子育てをしたいという若い人達が住みたくなる都市にしなければ先細りになってしまうのではないのでしょうか。アイデアはたくさんあります。書ききれませんので地道にコツコツと活動していきます。

- 子育て世代から地域の様々な人達のコミュニティをつくる。そのために小学校の統合などによる旧小学校、グラウンド、他施設の活用をする。グラウンドは公園（広場）としての利用やスポーツイベント利用、体育館はイベント開催などの利用（スポーツも含む）。プールは、プールとしての利用の他、砂を入れることで砂場として活用ができる。学校舎は宿泊できるようにリノベーションすることで合宿なども可能。そして災害時には防災の拠点として、また避難所としても活用が可能。この運営をNPOなど地域コミュニティで運営していく。既に豊田北部小は豊田中に統合される。豊岡東小など既に廃校となった場所の活用はどうなっていますか。
- 40年間本拠地とした磐田市民文化会館が閉鎖したこともショックだが、その建て直しが市の遠隔地になったことは致命的である。せっかく積み上げた演劇文化は今徐々に崩れていっている。再興は簡単ではないと思う。「子ども劇場」、「子ども映画会」で育った子ども達が、大人になって支えていた演劇文化だったのだから残念でならない。「子どもに豊かな文化を」のモットーを、スポーツと同じように今後も考えていくべきだと思う。文化は身近であるべきである。その文化は低俗なものではなく、一流の豊かさをもったものであってほしい。
- 将来の定住人口の確保やまちの活性化のために、少子高齢化に対する取り組みが重要であるが、若年層への対応としては親子体育教室の展開やジュビロ磐田のサッカー観戦など、スポーツ面での体験提供と同様に学校単位での芸術作品の鑑賞や体験など、様々な文化体験を提供することを通じてまちに愛着を持つことや、まちの人達とのつながりに手触りを感じ、思いを強くしてもらいたい。こうした意味でも市民文化会館の建設を併せて、その会場となる新展示場設立の建設を早期に実現したい。特に展示施設ができれば、芸術性の高い県市外の作品（絵画、書、写真や立体造形など）の作品展を開催し、一般市民の鑑賞に供するとともに、子ども達が授業の一環として意図的に鑑賞できる場を設ける。

■活動分野：まちづくり

- 行政の理解が必要。施設利用などはもちろんですが、チラシの配布や広報への取り上げなど、活動のモチベーションが上がるような施策を進めてほしい。
- 実際に活動しての意見・感想ですが、空き家（のオーナー）、利活用したい人とのマッチングについて、空き家を見つけても実際にそこを利用しようという段階で、交渉がうまくいかず頓挫する事例が複数ありました。その理由として、契約形態（短期・長期など）の問題、利用者の素性（信頼できる人、団体なのか？）、修繕や片付け、草刈りなどの物理的な問題から、交渉がまとまらないことが多いです。逆にその問題を交通整理することで、空き家の利活用が進むと確信しました。例えば、空き家利活用イベントを開催し、参加者が利活用アイデアをプレゼン、オーナーと共有化、マッチングする、そして最初から契約形態を統一するなどの工夫で、交渉がうまくいかないことは避けられると思います。賃料も最初から「この金額で」とプレゼンして、それに同意していただけるオーナーと引き合わせることで面倒な賃料交渉もなくなります。不動産は何かと複雑で、情報や知識に格差があると、特に空き家オーナーは不安からか、何もしないという選択をされる方が多いです。その結果、空き家が空き家のまま、時間だけが経過していきます。私達の団体もまだ市民に浸透しておらず、市民との信頼関係も築けていません。磐田市がそこを補っていただく（一緒にイベントを開催していただく等）ことで、私達は新しい空き家利活用の方法を市民に提案できます。賃料ですが、オーナーは「固定資産税がペイできる金額で良い」という方が多いです。あまり空き家にお金をかけたくなく、借主負担でリノベーションや片付け・草刈りをしてくれるなら、少々安い金額で賃貸しても良いと話されています。
- 豊岡地区の虫生という所では、昔から温泉が出て多くの旅人が泊まりに来たと本で読みました。現在豊岡地区の虫生、万瀬、大平は過疎化しており、虫生に温泉を作り、万瀬大平方面に関しては紅葉か桜の木を植えれば、多くの人が集まり過疎化した地域にも活性化するのではないのでしょうか
- 行政はもっとNPO法人を活用してほしい。「のっぽ」の役割、中間支援、相談に対応してほしい。今後も磐田市の発掘のため、私達団体も努力します。ぜひ、市民活動がしやすいまちづくりによりよろしくお願いします。引き続き協力よろしくお願いします。共に頑張りましょう。

- 市民の皆さんに自分の住んでいる所が素晴らしいと感じてほしい。それには我々の街の生い立ちや、今日までの歴史を学ぶことも大切かと思っている。地元の学校で歴史サークルが生まれると良いと思っている。生徒達に関心を持ってもらえると、活性化すると感じている。
- 市民文化会館が中泉から豊田へ移ることで、今の磐田駅北側が寂しくならないか心配。文化会館の跡地には活気あるエリアとするべく、広く市民の皆様の御意見要望を確かめ、実行に移してもらいたいです。
- “まちづくり”の基本は“人づくり”だと思います。若いお母さんが安心して子育てができる環境をもっとつくってほしいです。大変な「お母さん業」を手伝うことで、より良い「家庭教育」につながると思う。
- 青パトによる防犯活動ですが、ミュージックを流しつつ巡回している。巡回することで抑止力の効果はあると思うが、行政の方で放送の内容を吟味し実効あるパトロールにしたい。巡回にしても回数や時間帯等、地域任せだけでなく行政指導も考えていただきたい。
- 豊岡地区工業団地の工場見学や採用状況等の意見交換をし、磐田地区での採用率アップにつなげたい。
- 地域づくり協議会へ全て任せるのではなく、団体のトップを集めて行政との会合を開いてはどうか、それぞれの活動を通してまちづくりの夢を持っているはずである。見付については景観を江戸時代風にこだわりたいとの思いがある。見付宿場通りは道路拡幅により近代化、特徴のない街並みになってしまった。しかし、これから設置する物、建て替える家など江戸情緒が感じられるものであれば補助金を支給するとか、推進していく工夫をしていただければ大名行列も映え、宿場町を彷彿とさせるまちとなるのでは…。
- 公園や建物の設備など古くなってダメになったら、予算がないのではなくすのではなく、メンテナンスや維持管理、更新を含めた予算取りを最初から行い、せっかく作った良いものをなくしていくやり方を変えていく方が良い。更新も含めた数年計画での予算取りを行う。
- ①市の職員が事務を処理することに集中するのではなく、市民の声を拾い上げもっと専門職としての意見を活発に上司に提案できる態勢づくりを進める。そして、それをできるだけ部課長や市長が聞く耳を持って対応できる体制をつくる。②磐田市には多くの観光資料がある。それらを活用して市外からの交流を進める。③その地域が持っている特性（歴史、景観、風習等）を生かし、地域の活性化と他地区の人達が訪れたいくなる態勢をつくる。
- ①「市民第一」市民参加、参画の場を様々な分野で設置し、市民や市民活動、ボランティア活動を実践して人達の“生の声”をしっかりと聞いてほしい。②「現場第一」実践の場から学び、メンバーもボランティアもお互いに学びとなって生涯学習し続けていくことが健康寿命につながる。「社会参加」は現場で…。③「行動第一」“自ら考える”“仲間と一緒に考える”ことを意識しての行動は結実していくものであり、人づくりの大切な部分である。④「連携・協働」の意識化。「見える力」が大切であり、常に意識の中に存在していることで考えて企画立案実践ができるものと思われる。そのプロセスが大事である。⑤「男女共同参画」「多文化共生」市民の安心・安全な地域づくり、まちづくりの根幹であると考え。地道ではあるが丁寧な啓発推進、実践活動が今必要である。⑥市民活動を長年実践してきている人達は、その分野でも専門的な知識や技術が備わってきている。限られた範囲で仕事をしている方々（学校関係者・行政関係者など）は視野を広げるための“自己研鑽＝生涯学習”という視点を持ってほしい。⑦自治会活動、地域づくり協議会活動だけが「地域づくり・まちづくり活動」ではない。地域限定型の活動と地域を限定せずに活動している、いわゆるNPO活動をしている人達との両輪で、市民としての社会貢献活動のレベルが上がっていくものと考えている。ここ数年「協働提案事業」や「協働のまちづくり推進委員会」が停止していることは、市民の活動意識の面でも低迷感が感じられる。
- まちづくりとは、どんなまちづくりか。農村、商店街、住宅街、目指すまちはどこに置くのか。住民の目指すまちは同じなのか。7月31日（金）、今年初めてのイベントをクスノキ多目的広場で行いました。予想以上の人手があり、通報されました。コロナ禍で皆さん家を出る機会がなかったのかなと思いました。クスノキ広場で4～5年イベントを行っていますが、NPOのメンバーと地域づくり協議会の方達とのボランティアで行っています。ボランティアだけのイベント開催の限界も感じています。まちの魅力づくりを考えていきたいと思っています。

- 敷地里山公園は東地区のだ真ん中です。近くにはお宮、お寺、古民家、宮下家、旧東小学校などあります。里山の東には、古木があり、小鳥など自然がいっぱいです。敷地駅から1 km、敷地スマートインターから1.5 kmです。何か夢のある所です。市の職員の方、見に来てください。時間を忘れ、人生を思い出し、振り返り楽しく一日を過ごしてほしい。
- 御厨駅周辺の環境美化の目的で活動開始しました。今後区画整理事業が進み、駅前を含め商業化、企業の誘致が進んだ場合、沿道に接する商店及び企業に対し、美化活動に対する「環境美化税」を負担願いたい。管理会社の設立を考えていただきたい。ボランティア活動への助成の一部とすればボランティアの育成、参加者が増えることにもつながるのではないかと考えます。ボランティアの人材育成のための小学校、中学校の生徒のためにも使われるべきと考えます。

■活動分野：環境

- 空き家のリノベーションには興味関心があります。空き家を行政の主導で持ち主や市民の方々の協力のもと再生し、市民団体の活動施設、市のPR施設、飲食店や民泊等として利用できるようなになれば、市の活気を取り戻すのに一役貢献できるのではないかと思います（口で言うほど簡単ではないと思いますが）。さらに、その空き家に、当法人で研究開発している独立型太陽光発電システムを設置することで、電力を自給自足としたエコな施設に生まれ変わらせることができたら本望です。
- 困ったことがあったらすぐ市役所に相談、と皆様よく言われますが、私はできることをやってもできない時に相談するようにしています。リーダーになられる人には市の方でも教育をお願いしたいと思っています。住みやすい磐田に皆でしましょう。
- 住みよい地域を目指し、自治会と連携してボランティア活動をすること及び活動を通し、会員の親睦と区民との交流をより深めることを目的に10年間活動を継続してきました。その目的は達成できていると思います。活動の内容は自治会の回覧でも知らせて、区民の理解を得ていますが、行政にどの程度評価していただいているか。このような活動を若い世代に引き継いでいくことが課題です。市（行政）としてもこのような活動を奨励して評価して行くことが活動する団体の励みになり、活発になると思います。地元小学校があり、学童の下校時の見守りをボランティアで10年以上前に始めましたが、小中一貫校が一方向的に決まり、メンバーの中には、継続して行くか問題視しています。行政はボランティア活動が気持ちよくできるよう配慮すべきです。一方、市道路河川課は活動で集められた雑草等を処分するなど、ボランティア活動に寄り添っていただき大変心強く感謝しております。このような支援がボランティア活動にとって必要ではないかと思えます。

- 活動資金の援助。ベッコウトンボは市の宝です。絶滅の危機を乗り越えるため会員一同日夜活動していますが、新たな増殖場所の築造を計画していますが資金不足で実現は困難です。資材費（生簀）のご援助が必要です。2～3年以内に新たな生簀を築造して安定したベッコウトンボの育成が必要です。絶滅危惧種ベッコウトンボの安定的な羽化増を目指した保護増殖活動にご支援、ご協力を賜ればと市民意識調査を通して、今後の桶ヶ谷沼保全地域の復元活動の進め方等について私の考え「計画案」を申し上げます。当法人は平成6年から桶ヶ谷沼自然環境保全地域の保全復元活動をしています。平成16年からは、ベッコウトンボ保護増殖活動を主に活動しております。アメリカザリガニの影響を受けない木製生簀を築造。この成果が実り、目標とする羽化数には届きませんが、この十数年は300～600匹の羽化が確認されています。しかし、今年の羽化数は大激減91匹と過去にない異常事態となり、絶滅の危機が心配される状況下にあります。この危機を乗り越えようと会員は今まで以上に保護活動に努め、この難局を乗り越えるべく作業に協力、努力してくれています。現在、生簀は大小合わせ17基ありますが、生簀も築造後十数年が経過して、老朽化が進み修繕箇所も増え、将来的に現状の生簀維持管理が難しい状況となっております。このことから、新たなベッコウトンボの生息場所を築造することを考えています。以前のような沼本体からベッコウトンボが羽化、生息地となることが一番望ましいことですが、現在沼本体からベッコウトンボの羽化は確認されていません。アメリカザリガニの大発生で沼の生態系が破壊され大きく様変わりしました。一度壊された桶ヶ谷沼の復元は現状から早期の復元は困難な状況と思われます。沼の北側に、東西約100m、南北約60mの池「楕円形の昭和の池」があります。現状は、葉菖蒲が池の3分の1を占め、葦、イ草が点在、水面が広がっており、どちらかといえば不毛の池となっています。この池を1～2年の間に改修、造成してミニ桶ヶ谷沼を造り、ベッコウトンボ育成の場所「池」に改修して、現在の生簀群と合わせれば、安定した羽化、生息地として期待できるものと考えております。桶ヶ谷沼、ベッコウトンボは磐田市の宝であります。絶滅危惧種ベッコウトンボが途絶えることなく、今後長く生息地となればと計画しております。この計画案をご検討くださり、実現できるようご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。
- 「広報いわた」に市民伝言板のコーナーがあります。令和2年度の4月は11件、5月に8件（当会の活動紹介も）、6月は3件、7月は7件でした。6月に別の活動を紹介していただき、問い合わせがあり、参加に結びついたのはラッキーな結果でした。市民活動等を皆に知ってもらいたい団体が広報したくても、次のような制約があり二の足を踏み、諦めているのではと思います。①締め切りは広報の発行月の10日まで。2か月先の行事までしっかり計画できるのは稀ではないか。突発的な行事は相談できない。②政治的な活動は掲載できないと誓約。政党活動、選挙活動はまずいと思うが、政治で一括するのはどうなのか。③同じ団体は年に1回までと制限。
- 中学校区単位での小中一貫教育の推進について。市内には小学校で22校、中学校10校がありますが、それぞれの学校には歴史、文化、校風等が連綿として築かれて、先輩達が我が母校として誇りに思い、後輩に引き継がれています。小学校と中学校の教育課程を調整し、一貫性を持たせた教育方式をとらえ、今後10中学校区に集められようとした施策を目玉としています。これには莫大な予算経費を投じなければなりません。メリット、デメリットを慎重に考えていただきたいです。時あたかも新型コロナウイルス感染症という誰もが予想しなかったことに遭遇しました。大変大きな出費は極力避けなければなりません。大切な虎の子（財政調整基金）を蓄えていましたが、あっという間に消えてなくなってしまう現実を考えてください。私達身近な地元の道路は、舗装状態が悪く“ピンポン玉道路”と揶揄されかねない状態で、隣の袋井市内の道路と比べてもひど過ぎます。もっと一般地元住民の足となる道路事情の改善が喫緊な課題でもあります。小中一貫教育になった場合、今までの小学校の施設、設備の活用方法はどうなりますか。議員の動きからもさほど見通しや検討という声も我々に伝わらず、市民への公聴会的な動きもありません。小学生を中学校まで移送するにもバスの手配、運転手の確保等、大変な難題が山積しており、保護者は果たして賛同しているのでしょうか。この際、この問題について多方面から検討し考え直してください。
- 現在は大人だけの活動なので小中学生を巻き込んだ活動にしたい。

- 磐田原台地西縁部斜面の森の神増坂を復元して活動しています。ここ1～2年で神増坂の案内チラシ（パンフレット）を作成したいと思っています。このチラシは地元で回覧板を回す、コンビニに置く、神増坂入口に置く、SNSで流すなどして活用したいと思っています。磐田原台地の成り立ち、地質学的な要素、天竜川との関係など知識として学習し、チラシに反映させたいと思っています。このような内容を勉強する機会がありましたら、ご一報いただければありがたいです。県の森の力再生事業で、ここ2～3年の台風で荒れた森がきれいになることを期待しています。
- 消費活動は、女性だけでなく男性もぜひ会員になってほしい。今はボランティアの男性が4人、回収事業の時は手伝ってくれていますが、少し高齢です。定例会でアイデアをいただきたい。マイバッグは昭和50年に発足した当時から実行している活動。トレーも少しでも減るよう、ゴミ対策課の方達と方法を考えていきたい。環境大臣賞をいただいたのに、前に進めていないのが悔しい。
- 道路づくり（拡幅含む）が多くので中途半端。見切り発車が多いのではないかな。
- 荒れ地の草が生い茂り、周りの土地に迷惑をかけている。変な虫や植物が生息していたら大変困ってしまう。
- ①ボランティア活動の活発化、モチベーションアップに対しては評価基準を設けたうえで評価して、表彰制度を設けることが必要だと思います。②ボランティア活動の輪を広げるためには、やっていない地区へモデル地区の活動を紹介する機会を設けることが必要だと思います。③環境美化活動は道路河川課の支援が大きな支えになっています。行政による支援は活動を活発化するうえで必要です。④小学生の下校時の見守り活動に対して、学校・生徒がボランティアを招いて感謝の会を行っています。このような心遣いが大切だと思います。⑤一方、小中一貫校が地域に対して十分説明がないまま進められ、学童の見守りに水を差す結果になりかねません。ボランティア活動に対しても教育委員会や行政の配慮が必要だと思います。
- 今之浦公園が生まれ変わることによる新たなものを生み出したいと思っています。今之浦公園と今ノ浦川の水辺を最大限利用したものにできれば、公園の魅力と、磐田及び環境がより魅力あるものになると思う。私達は、国土交通省が2011年に打ち出した「次世代都市への転換は水辺から」という政策から協働で立ち上げて、水辺活動並びに環境への視点を持った活動を進めようとしています。とかく河川は豪雨による洪水の恐怖が伴いますが、ただ怖いからと水辺を市民から断絶してはいけません。水辺環境こそが人間が生きるための根本だと言えます。今之浦公園を単に遊びの場に終わらせない企画を生み出さなければと思います。そのために、地域づくりの会・市民そして磐田市（行政）との具体的話し合いの場をつくる必要があります。その担当課を決めていただきたい。会員からの要望として、今之浦公園が新しくなった時、多くの市民対象にラジオ体操のように月1回でも笑う時間を作ったらと提案があります。笑うための方法としてはラフターヨガという誰でもできる笑いの体操（有酸素運動）をお勧めします、と言っています。

■活動分野：その他

- 「こんにちは」と、畑で草を取っていると、元気な声が聞こえる。振り返ると学校帰りの3、4年生くらいの子が挨拶してくれる。良い子ども達だ。帰りの要所にはサポータークラブの人達が見守っている。この子達は8か月もすれば小中一校開校で豊田中学校まで行かなければなりません。小学校の跡地はどうなるのか。40年くらい前は隣組総出で運動会をやったものです。当時は我が家も子どもが3人いて、学校生徒数は2,000人を超えていました。世の中を支えていく次世代の若者が減少していくことは経済も落ちます。コロナ禍で来年の税収も減り、大変だと思います。これからの目標は、少子高齢化の解消、人口増加、ワクチンの研究開発、新型コロナ撲滅。
- 専門家ではありませんが、新型コロナウイルスが発生して感じたことを述べさせていただきます。住民の気持ちに寄り添える質の高い保健師の増員を望みます。特に児童虐待や災害が増えているので。建造物を造る時には設計士だけに任せるのではなく、設計の段階でその道に長けている会社（音響設備を備える時など）、建物をよく使用する人達を巻き込んで意見の集約を行ってから造る方が良いと思います。何十年も使用するものだから、後悔しないようにした方が良いと思います。

- 今之浦公園の工事が始まり、大変嬉しく思います。幼児から高齢者までが楽しめる公園になることを期待しております。
- もう既に協働の時代です。本来の意味での協働をもっと進めることが、これからの社会づくりです。それには公務員も意識改善が必要です。
- 多文化共生のまちづくり。この数か月、外国人人口が毎月数十人ずつ減っているようです。帰国はしにくいので、その人達は他市町へ転出していると思われます。苦しい時こそ、真の姿が問われると考えると、磐田はまだまだ住みやすいまちとは言えないのかもしれませんが。磐田の南御厨地区が多文化共生の先進地として全国から注目されてから15年くらい経過したでしょうか。その間に磐田の状況も変わり、全国（他市町）の状況も変わりました。アンテナを高くして、他の先進地に学びながら、磐田の多文化共生を本物に進めていただきたい。そのお手伝いができればと思います。それと、お手伝いしてくれる人達はたくさんいると思いますが、引っ張ってくれる頼もしいリーダーがどの分野、団体などでも不足ではないかと思います。切実です。発掘、養成は急務かもしれません。
- 動物愛護の考え方・思いは、社会では少数派かも知れませんが、多種多様な方々、団体、担当行政などと協力して、ペットも人も住みやすい幸せを共有できる社会構築のために努力しています。まちづくりは行政と地域住民が真に協力し合っていくことが大切です。お互いに忌憚のない意見交換を通して新たな発見、アイデアが生まれることもあります。お互いに尊敬し合って細やかで温かな情が通うまちづくりができれば良いです。担当部門の職員は積極的に市民活動に参加してみてください。現場に出てみなければ分からないことがあります。市長さんも同様です。謙虚に学ぶ姿勢が必要です。利権にとらわれてはいけません。自己満足に溺れてはいけません。悪しき習慣に麻痺してはいけません。旧二本松藩の戒石銘碑をご存じでしょうか。一度ご高覧くださいませ。どちらが上とか下ではなく、共に築きたいという意志と行動力があってこそ住みやすい場所への変革がされましよう。ペットの災害対策は環境課にお世話になっております。県・西部保健所、動物管理センターにもお世話になっております。危機管理課の方々とも関わって参りたく思います。
- 都市基本、基盤、環境政策等の現況に関して、また今後に関しての要望、要求等多々ありますが、直接市長他中枢にいる方々と話をしたいと、いつも思っていますが、その方法がありません。市民に開かれた市政を…と開かれている窓が明確にほしいものです。現在は一部の有力者（？）の方々でしょうか。現市長にはとても期待しているのですが、お話しさせていただく機会が全く見当たりません。残念な思いをしております。活動分野だけでない、全体像に関してのものでありますので、具体案でなくてごめんなさい。
- シニアクラブ活動とサロン活動はお年寄りの引きこもりを減らす車の両輪。参加したいと思えるような魅力あるクラブとしたい。私達の青城地区には13自治会があり、シニアクラブは4クラブ7自治会が加入、サロンは9地区、シニアクラブは年々減ってきている。会員増やす対策が必要。いずれは介護施設へもお世話にならないといけませんが、少しでも健康寿命を延ばすべくフレイル予防をし、元気な高齢者を目指す。活動の手助けに協力していきたい。
- 磐田市は中心部も含め災害の恐れもなく、自然環境、歴史遺産にとっても恵まれた都市です。多くの市民がまちを愛し、何かためになる行動をする「求心力」が都市の力を生むものと常々思っています。コロナ禍で大都市居住の危うさが露呈し、自治体の役割が広く認識された今、磐田市の良さを見直す時だと思えます。地域の高齢者を見ていて、特に男性は退職後も地域に目を向けず、現役時代の付き合いのまま年を重ねてしまうことが多いのです。高齢者でも地域のためになる活動は色々あるのに。そこでキーになるのは「歴史と文化」ではないかと思えます。現役時代からそのキーにより地域に触れ、加わる必要があります。市民文化会館の移転で、市中心部にホールも展示場もなくなった今、ハードの整備は欠かせませんが、一方ソフトでの取り組みなど、市旧文化財、アート、オープンカーテンツアーなど企画してほしい。また若い人の流入対策として最近テレビで富士市や湖西市の例が紹介されていましたが、当市の状況もぜひ高齢者にも伝えてほしい。高齢者は宣伝塔として存在していますので。

- 男女共同参画社会基本法は、あらゆる法の上位法であり、磐田市が条例を制定し男女共同参画の推進の場として「男女共同参画センター」を持っていることを誇りとして、名前だけでなく真に活動できる人材の養成、市民の学習の機会の提供などできるよう、まず市当局自体の部局を横断的に連携するプロジェクトを再編し「男女共同参画社会は女性のため」ではなく「誰もが生き生き住み易い社会」であることを認識した行政諸施策を立てるよう努めるべきと思います。頑張っている男性・女性、地域福祉を支えている男性・女性、子育て世代の男性・女性、気付きさえすれば大切な重要な力になる中高生、若者、余力のある後期高齢者、まちづくりにどう関わっていくか、どう力を活かすか、市当局担当の知恵と勇気を期待します。
- 町に活気がない。駅前通りは子どもから年寄りまでが楽しめるような趣向がほしい。公共の場をぜひ考えてください。
- 防災に男女共同参画の視点を取り入れることを行政から進めてほしい。我慢の避難所ではなく、被災のショックを和らげ、元気を回復できる場所にしましょう。交流センターでオンライン講座ができるようにしてほしい。Wi-Fiの制限時間をなくす。
- ①活動の基本に、現憲法の“平等規定”は前提であると思う。最近のジェンダー問題は行政として位置づけを明確にされたい。②設問に賛否の分かれるものがある。内容の吟味が必要。例えば、子育て・教育の項では項目ごとに賛否が分かれて困る。また、行財政改革の項も、以前は“適材適所”と言えば良いことにつながった傾向にあると思われたが、合併による役所（支所）規模の縮小につながり、住民生活にとってマイナスであった。教育環境もわかりである。③磐田市が子育て支援のためにどれだけ力を入れているか展望を見せてほしい。少子高齢化はコロナ禍の中でもしっかりとした対策があれば住みよいまちとして人が増えるのだと思う。小中一貫校は時代に逆行している。④市長と語る会のあり方、設定の仕方など手続きが見えない。⑤行政は簡素化・効率化ではなく職員が余裕を持って市民と会話できる人員配置が必要と考える。⑥コロナ禍の中での対策もPCR検査箇所を増やすことが最重要。独自施策の検討も要請したい。そのための人の手立ても。⑦緑地帯の消滅、減少。今之浦公園や見付の幼稚園にあった樹木が新しい設備のために、全部伐採されると聞く。まさに愚策としか言いようがない。自然環境はいつべんにはできない。今ある自然環境を有効に利用して計画することが大切なことである。⑧JR新駅でのまちづくりについて。この駅は平地に恵まれていない。周辺に企業や学校等もあり発展しにくい。豊田駅周辺と違う環境だが、住みよいまちづくりをどうするか地元自治体の創意を願う。個人的には磐田駅から御厨駅を結ぶ循環バスの計画を提案する。市内団地を巡ってつなぐ左右2通りのバス路線ができれば利用者も増加、無駄な路線を解消し、運転手の確保も可能と考える。現状、何のための新駅か分からなくなる。
- 今後数年はウィズコロナ。生活に疲れが出て、活動に気を遣いますが、こんな時こそ新しいことをやってみようと立ち止まらずに交流し続けられるメンバーが磐田にいます。非対面による情報交換やZOOMの活用をいかに活性化するかがカギとなりますが、まだまだ手探り状態。まずやってみることが活動になると思います。新しい市民活動への支援・応援をよろしく願います。

Ⅲ 調査票

令和2年度（2020年度）
磐田市市民意識調査

《回答ご記入上の注意》

1. この調査票は、団体の代表者様にお送りしています。**ご本人様**が回答をご記入ください。
なお、代表者本人が回答できない場合は、代理の方がご回答になってもかまいません。
2. 調査票や返信用封筒（切手不要）にお名前を書いていただく必要はありません。
無記名でお答えいただきますので、どなたがお答えしたかわからないようになっています。
3. お答えいただいた内容は、調査の目的以外に使用することはありません。
4. 回答は回答欄の番号に○印を、また（ ）内には具体的にお書きください。
5. 回答の記入が済みましたら、記入漏れがないかをご確認の上、**8月11日（火）**
までに同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにお近くのポストにご投函ください。

【お問い合わせ先】 磐田市企画部秘書政策課 政策・行革推進グループ

〒438-8650 磐田市国府台3番地1

電話：0538-37-4805

FAX：0538-36-8954

E-mail:kikaku@city.iwata.lg.jp

1 貴団体のことについて

問1 貴団体が主に活動されている地域をお答えください。〈○印を1つ〉

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1 見付地区 | 2 中泉地区 |
| 3 今之浦地区 | 4 岩田・大藤・向笠地区 |
| 5 西貝・御厨・南御厨・田原地区 | 6 天竜・長野・於保地区 |
| 7 福田地区 | 8 竜洋地区 |
| 9 富岡・豊田東・池田地区（豊田中学校区） | 10 井通地区・青城地区（豊田南中学校区） |
| 11 豊岡地区 | 12 磐田市全域 |
| 13 その他（ | ） |

問2 貴団体の主な活動分野をお答えください。〈○印を1つ〉

- | | |
|--------------|------------|
| 1 保健・医療・福祉 | 2 子どもの健全育成 |
| 3 文化・芸術・スポーツ | 4 まちづくり |
| 5 環境 | 6 その他（ |

2 地域（磐田市）の特性について

問3 貴団体が日頃活動されている地域の強み（良い点、活かすべき点）は何だと思えますか？

〈○印を3つまで〉

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 1 地域の連帯感・協力等 | 2 地域活動（コミュニケーション、環境美化、防犯・防災） |
| 3 地域を支える人材 | 4 習慣・気質 |
| 5 自然環境・地形 | 6 産業 |
| 7 歴史・文化 | 8 交通・立地条件など生活利便性 |
| 9 景観 | 10 交流センターなどの施設の充実 |
| 11 人口・世帯数の増加 | 12 その他（ |

問4 貴団体が日頃活動されている地域の弱み（悪い点、改善が必要な点）は何だと思えますか？

〈○印を3つまで〉

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1 アパート居住者、外国人との交流等 | 2 地域活動への参加・協力意識 |
| 3 優秀な人材・リーダーの不在 | 4 風習、気質 |
| 5 環境問題 | 6 産業（農業・商業等）振興 |
| 7 文化振興（伝統の維持等） | 8 生活環境（道路、交通、上下水道等） |
| 9 防災対策 | 10 少子高齢化、人口減少 |
| 11 急激な人口増加（新規転入者の増加など） | 12 その他（ |

3 磐田市の今後の取り組みについて

問5 磐田市では、総合計画において下表の31の基本施策に取り組んでいます。今後の取り組みとして、特に重要であると思うもの、優先すべきと思うものはどれですか？5つまで選んで、優先度の高い順にその取り組みの番号を記入してください。

優先度	← 高い → 低い				
番号					

問6 日本全体が人口減少局面を迎えているなか、磐田市では、2060年（令和42年）に総人口13万6千人を確保することを目指しています。（※2020年3月末人口：16万9,673人）総合計画における下表の31の基本施策のうち、人口減少問題に対して特に重要だと思うものはどれですか？5つまで選んで、その取り組みの番号を記入してください。

番号					
----	--	--	--	--	--

【表】総合計画における31の基本施策

分野	基本施策	主な内容
産業・雇用・観光・移住・定住	1 元気な農林水産業の育成	・次世代型農水産業などに参入する企業への支援 ・耕作放棄地 [※] 解消への支援及び抑止対策の促進 ※耕作の目的で使われておらず、引き続き使われる見込みのない農地
	2 中小企業等の競争力強化と企業立地の推進	・事業継承をする中小企業等への支援 ・工場等の新增設を行う企業への支援や企業誘致の推進
	3 産業を担う人材の育成・就労の支援	・求職者へ就職支援に関する情報を提供 ・UIターン就職の促進（首都圏などで合同企業説明会や面接会等の開催）
	4 交流人口の拡大と商業・サービス業の活性化	・軽トラ市の開催支援 ・磐田まちめぐりゼミナール [※] の開催 ※商店主が講師となり、お店の専門的な知識や情報、コツを無料で受講者に伝える講座
	5 ブランド力の強化とシティプロモーションの推進	・InstagramなどSNS [※] を活用した市の魅力発信 ・「しっぺい」を活用した市内外でのPR活動 ※インターネットを介して人間関係を構築できるスマホやパソコン用のWebサービスの総称
	6 移住・定住の推進	・小中学生向けの就労・起業啓発事業の実施 ・Uターン就職をした方への奨学金返済の一部補助

分野	基本施策	主な内容
自治・スポーツ・文化・歴史・共生	7 コミュニティと市民活動の活性化	・地域づくり協議会の設置・支援 ・自治会活動や自治会公会堂整備などへの支援
	8 スポーツの振興	・2つのジュピロ(サッカー・ラグビー)を活かした事業の実施や各種大会やイベントの誘致・開催支援 ・既存のスポーツ施設の計画的な改修・修繕の実施
	9 文化の振興と歴史遺産の整備、活用	・文化芸術鑑賞会(展示会やコンサートなど)の開催や文化芸術活動への支援 ・遠江国分寺跡の整備事業の推進
	10 学習機会の充実	・交流センター講座の開催や学びの庭・学びの師・学びの友 ^{※1} の発行 ・地域資料のデジタル化や電子書籍サービス ^{※2} の推進 ※1:生涯学習関連の情報誌 ※2:デジタルデータで作成される出版物(電子書籍)を、検索・貸出・返却・閲覧できるサービス
子育て・教育	11 共生社会の確立	・外国人市民への情報提供や外国人情報窓口 ^{※1} の設置 ・男女共同参画やLGBT ^{※2} に関する講座や講演会の開催 ※1:外国人の生活相談又生活に関する情報等を常駐するスタッフが多言語で対応する窓口 ※2:レズビアン(L)、ゲイ(G)、バイセクシュアル(B)、トランスジェンダー(T)の頭文字をとった性的少数者の総称
	12 子ども・子育て支援の充実	・子育て相談機能を備えた「ひと・ほんの庭にこっと」の開設・運営 ・保育枠確保に向けた施設整備への支援
	13 特色ある教育の推進	・中学校区単位での小中一貫教育 [※] の推進 ・小中学生の広島平和記念式典への派遣や、中学生の海外派遣の実施など、体験を重視する教育の推進 ※小学校と中学校の教育課程を調整し、一貫性をもたせた体系的な教育方式
	14 子ども・若者の健全育成	・放課後児童クラブ [※] の拡充(対象者6年生まで)や民間児童クラブへの運営補助 ・子どもから若者までのあらゆる相談に対応する「こども・若者相談センター」の設置 ※児童に対し、放課後や長期休業中に保護者に代わって育成支援を行う施設

分野	基本施策	主な内容
健康・福祉	15 地域福祉の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉ボランティア活動への支援 ・生活困窮者の就労を含めた相談窓口の設置など、自立に向けた相談体制の充実
	16 高齢者福祉の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者在宅福祉サービス(在宅介護手当、タクシー券、紙おむつ券助成等)の実施 ・高齢者相談・支援体制(地域包括支援センター[※]など)の拡充 ※高齢者およびその家族からの相談の受付や、高齢者の見守り、心身の状態にあわせた支援を行う高齢者の総合的な相談・サービスの拠点
	17 障がい児者福祉の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある方の各種相談や情報提供などを行う障害者相談支援センターの設置 ・障がい者福祉施設整備への支援
	18 健康づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健康診査[※]やがん等の検診事業の実施 ・健康講座や健康相談を行う「まちの保健室」事業の実施 ※心筋梗塞や脳血管疾患、糖尿病等、生活習慣病の要因となるメタボリックシンドロームに着目した健康診断
	19 地域医療体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・市立総合病院の施設・設備の充実など、機能強化の推進 ・救命救急センターと急患センターの連携による救急医療体制の強化
防災・消防・安全安心	20 危機管理・防災対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模停電対策事業や海岸堤防整備事業の推進 ・木造住宅の耐震化への支援や耐震シェルター[※]設置補助など、家庭における防災対策の推進 ※地震で住宅が倒壊しても寝室や睡眠スペースなど一定の空間を守ってくれる装置
	21 消防・救急体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団の組織強化(団員確保や装備の充実など) ・消防車両や資機材の整備及び貯水槽の耐震化の推進
	22 市民生活の安全・安心の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラの設置など、地域の防犯活動への支援 ・子どもや高齢者を対象とした交通安全教室の実施
都市基盤・環境	23 計画的な土地利用の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・駅、インターチェンジ、幹線道路、区画整理、公園等の計画的な整備の推進 ・磐田市景観計画[※]に基づく良好な景観形成への誘導 ※景観法に基づく良好な景観形成を維持するための計画

分野	基本施策	主な内容
都市基盤・環境	24 公共交通体系と道路網の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路や生活道路、通学路の整備 ・JR御厨駅の設置や新東名スマートインターチェンジ[*]の設置の推進、デマンド型乗合タクシーの運行充実など、公共交通・交通拠点の整備・充実 ※高速道路の本線上などに設置されているE T C専用のインターチェンジ（I C）のこと
	25 良好な住環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・今之浦市有地・今之浦公園整備事業の推進 ・空き家の除却への支援や中古建物リフォーム補助制度の実施など、空き家対策事業の推進
	26 水道水の安定供給と下水道の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・漏水・断水事故等を軽減するための老朽管の更新や管路の耐震化の推進 ・既設の上下水道施設の計画的な維持管理と長寿命化の推進
	27 環境にやさしい社会の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者のエコアクション 21 認証取得に対する支援 ・アース・キッズ事業[*]の実施や市民・団体が行う環境保全活動への支援 ※子どもたちがリーダーとなって、家庭で地球温暖化防止に取り組む実践型教育プログラムのこと
	28 快適な生活環境の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄対策の推進 ・多様化する墓地需要に対応するため、駒場霊園内に「合葬墓^{*1}」と「芝生区画^{*2}」を整備 ※1：永年合葬式の納骨施設 ※2：全面芝生の洋風墓地で、カロート（納骨スペース）が地中に設置してあり、その上に墓石を建てる区画
行財政改革	29 効率的・効果的な行政運営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参画を推進するため、市長と市政を語る会や訪問市長室[*]の実施 ・ホームページの改善や電子申請による行政手続きの簡素化の推進 ※市長が市内で活動する個人や市民団体、企業等を訪問し、現場を実際に見て、皆さんの声を聞くことで今後の市政に活かすための活動
	30 持続可能な財政基盤の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税制度[*]の活用や有料広告等の収入による自主財源の確保 ・利用可能性のない遊休未利用地の売却 ※自分の意志で応援したい自治体（都道府県・市区町村）を選んで寄附できる制度
	31 機動的な組織体制の構築と人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・組織機構の見直しや適材適所の人員配置の実施 ・人事活用制度を活用した人材の育成や研修などの実施による職員の資質向上

4 貴団体の活動について

問7 これからのまちづくりは、行政だけでなく、多様な担い手の協力が必要です。既に市内でも多くの団体が、地域の問題解決や住みやすい地域にするための活動をしています。

そこで、貴団体が地域のために取り組んでいる具体的な事例や工夫していることがありましたら、ご紹介ください。また、今後取り組みたいと思っていることもお教えてください。

＜箇条書きでご記入ください＞

現在、取り組んでいること

-
-
-
-

今後、取り組みたいこと

-
-
-
-

問8 貴団体が活動（ボランティア活動・NPO活動）をする上での問題点は何ですか？

＜○印を3つまで＞

- 1 組織を支える優秀な人材が不足している
- 2 イベント等を手伝ってくれるボランティアが少ない
- 3 団体を維持していくだけの活動資金が不足している
- 4 市民や地域、行政からの活動の要請が少ない
- 5 市民へのPR不足、活動が浸透していない、理解されていない
- 6 集会や研修活動等を行うための場所の確保が難しい
- 7 市民団体やNPO間での情報交換や活動の連携・調整を図ることができていない
- 8 磐田市市民活動センターが活かされていない、または、うまく機能していない
- 9 その他（)

問9 貴団体では、今後、市民・行政の協働のまちづくりへの関わり方についてどうお考えですか？

＜○印を1つ＞

- 1 積極的に協働のまちづくりの一翼を担いたい
- 2 求められれば参画する
- 3 興味がある内容なら参画したい
- 4 協働の必要性を感じていない
- 5 その他 ()
- 6 わからない

問10 協働のまちづくりを進める上でどのようなことが重要だと思えますか？

＜○印を2つまで＞

- 1 市民団体等と市との間での情報の共有化（情報提供、意見交換機会の充実など）
- 2 政策立案に市民団体等が関与できる機会を増やすこと（会議や計画への参画機会の充実など）
- 3 活動や組織の強化に対する支援（ボランティアの充実、PR支援、資金調達支援など）
- 4 行政との協働まちづくりのモデル事業の実施
- 5 市職員の意識改革やコーディネータ力の向上（人材交流、職員研修など）
- 6 その他 ()

次ページに続きます。→

5 新型コロナウイルス感染症について

問 11 新型コロナウイルス感染症により、貴団体はどの程度の影響を受けましたか？

＜○印を1つ＞

- 1 かなり影響を受けた 2 少し影響を受けた 3 影響はなかった

問 12 は、問 11 で「1 かなり影響を受けた」「2 少し影響を受けた」とお答えの方にお聞きします。

問 12 具体的にどのような影響がありましたか？＜該当するものすべてに○印＞

- 1 イベントの実施やスタッフの派遣などの活動を中止にした
- 2 利用者や参加者が減少した
- 3 今後の活動内容や実施方法の検討が必要になった
- 4 寄附や売り上げの減少などにより、活動費の確保が難しくなった
- 5 役員やスタッフが活動できなくなった
- 6 総会などの必要な会議が開催できなかった
- 7 その他 ()

問 13 今後活動していくうえで、どのような対策や工夫をしていますか？

-
-
-
-

令和2年度（2020年度）
磐田市市民活動団体意識調査 調査結果報告書

発行 令和3年3月
編集 磐田市 企画部 秘書政策課 政策・行革推進グループ
〒438-8650 磐田市国府台3番地1
TEL 0538-37-4805 / FAX 0538-36-8954